

3 家庭や地域生活での男女共同参画

1 結婚・離婚・家庭についての考え方

問 10 あなたは、次の考え方についてどのように思いますか。ア～エのそれぞれの項目について、該当する番号を1つ〇で囲んでください。

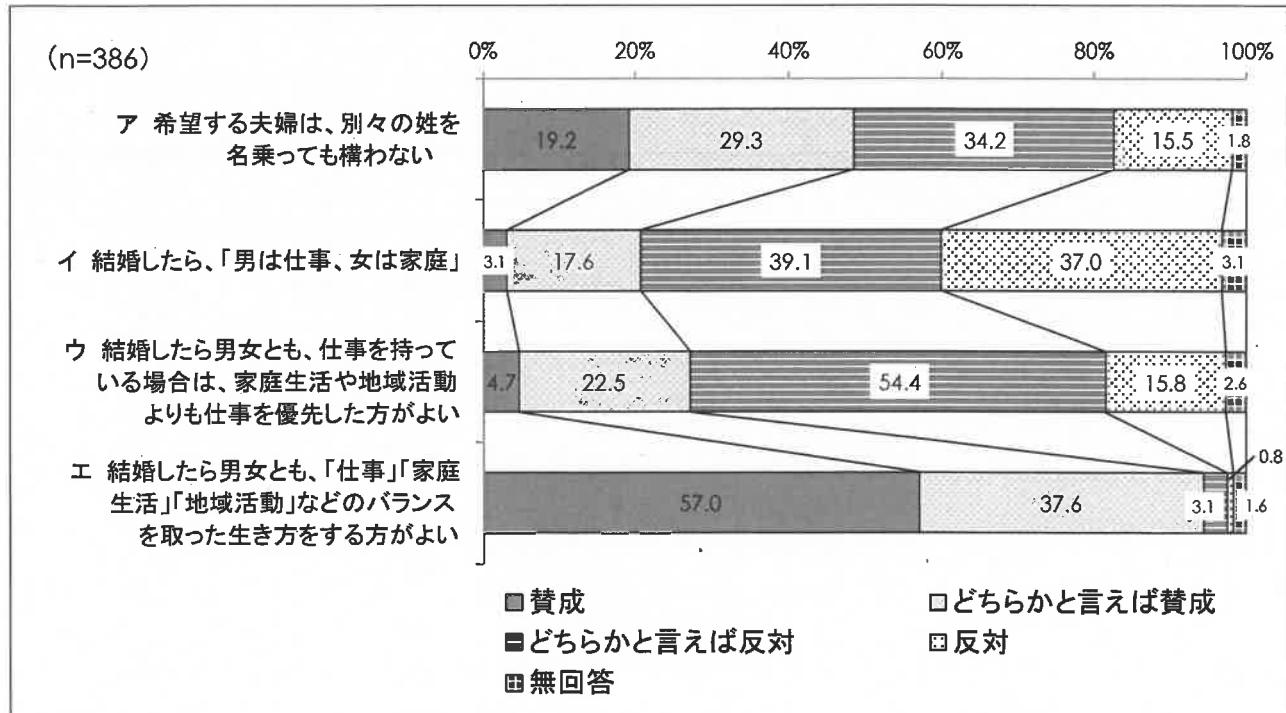
【全体の傾向】

結婚・離婚・家庭についての考え方についてたずねたところ、「希望する夫婦は、別々の姓を名乗っても構わない」については「賛成」と「どちらかと言えば賛成」を合わせた『賛成』の割合が48.5%、「どちらかと言えば反対」と「反対」を合わせた『反対』の割合が49.7%となっており、賛成、反対の意見に大差はみられません。

一方、「結婚したら「男は仕事、女は家庭」」については『反対』が76.1%、「結婚したら男女とも、仕事を持っている場合は、家庭生活や地域活動よりも仕事を優先した方がよい」についても『反対』が70.2%と『反対』の意見が7割を超えていました。

また、「結婚したら男女とも、「仕事」「家庭生活」「地域活動」などのバランスを取った生き方をする方がよい」については『賛成』が94.6%と大半を占めています。

図表 9 結婚・離婚・家庭についての考え方（全体）



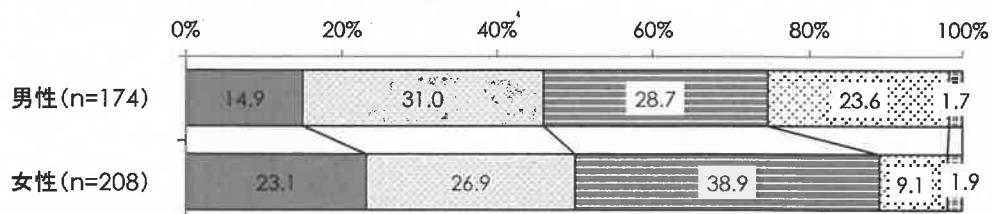
【属性別の傾向 男女別】

男女別にみると、「結婚したら男女とも、仕事を持っている場合は、家庭生活や地域活動よりも仕事を優先した方がよい」については、男女とも『反対』が過半数を占めていますが、その割合は男性の62.7%に対し、女性は 76.0%と7割を超えていました。また、「結婚したら、「男は仕事、女は家庭」についても同様に『反対』が過半数を占めていますが、その割合は女性（78.4%）が男性（73.5%）を上回っています。

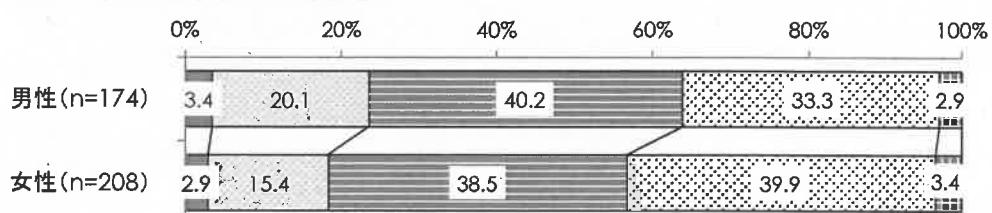
「仕事を優先する」、「男は仕事、女は家庭」などの考え方については、女性の方が男性に比べて『反対』だという意見がより多い傾向にあります。

図表 10 結婚・離婚・家庭についての考え方（男女別）

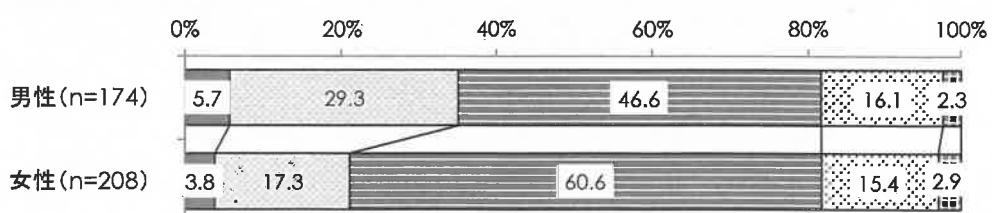
ア 希望する夫婦は、別々の姓を名乗っても構わない



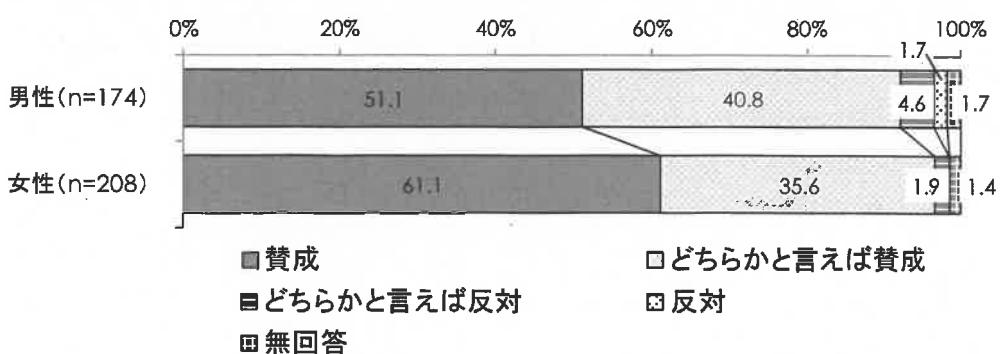
イ 結婚したら、「男は仕事、女は家庭」



ウ 結婚したら男女とも、仕事を持っている場合は、家庭生活や地域活動よりも仕事を優先した方がよい



エ 結婚したら男女とも、「仕事」「家庭生活」「地域活動」などのバランスを取った生き方をする方がよい



【属性別の傾向 年代別】

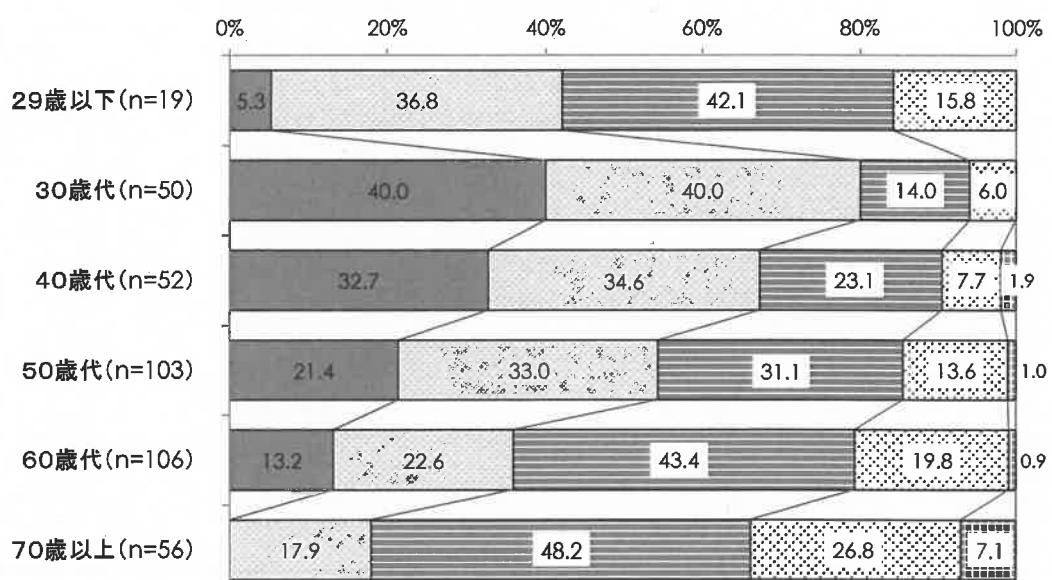
年代別にみると、「希望する夫婦は、別々の姓を名乗っても構わない」については、30～50歳代では『賛成』の割合が過半数を占めていますが、30歳代から年代が上がるにつれ、『賛成』の割合は減少し、60歳以上の年齢層では『反対』の割合が過半数を占める結果となっています。

「結婚したら、「男は仕事、女は家庭」」については、どの年代においても『反対』の割合が高く、なかでも、40歳代と60歳代では8割を超えていました。

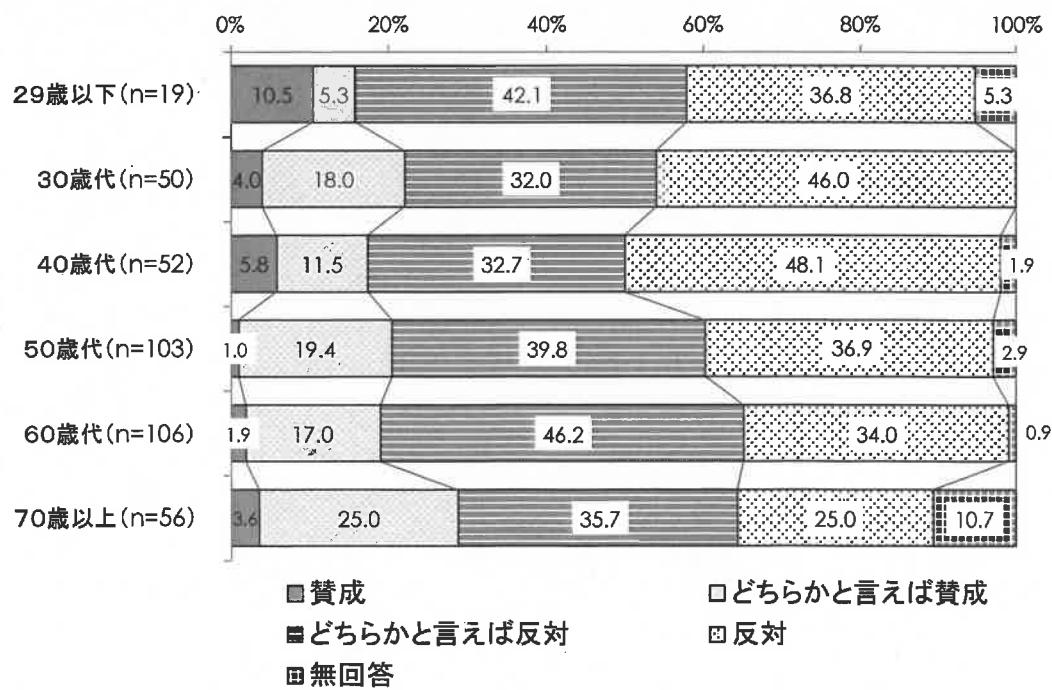
一方、70歳以上では『反対』の割合が6割程度とやや低くなっています。

図表 11 結婚・離婚・家庭についての考え方（年代別）

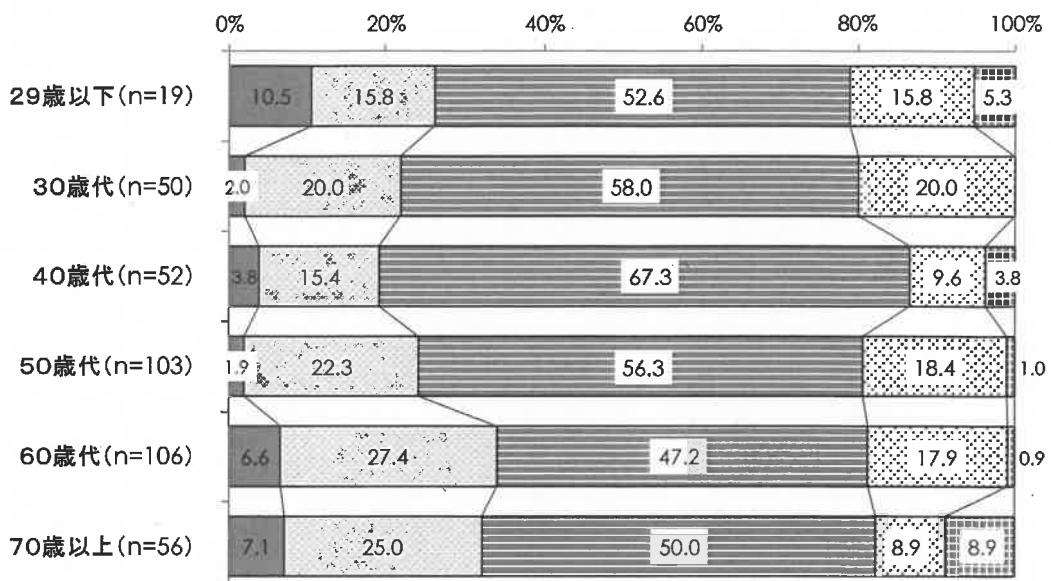
ア 希望する夫婦は、別々の姓を名乗っても構わない



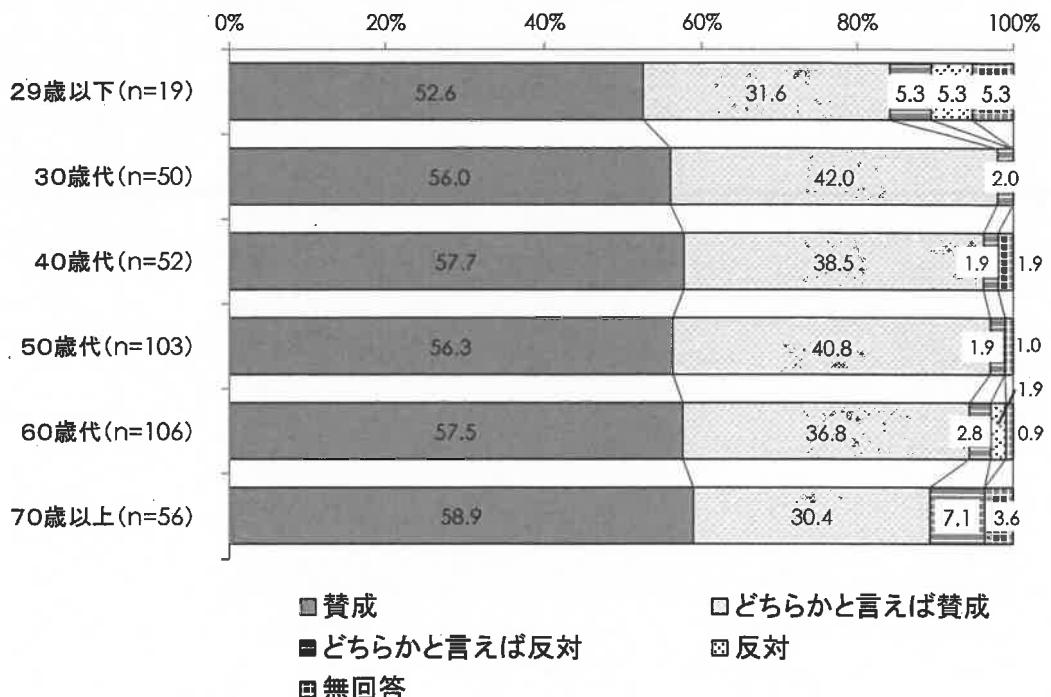
イ 結婚したら、「男は仕事、女は家庭」



**ウ 結婚したら男女とも、仕事を持っている場合は、家庭生活や
地域活動よりも仕事を優先した方がよい**



**エ 結婚したら男女とも、「仕事」「家庭生活」「地域活動」などの
バランスを取った生き方をする方がよい**

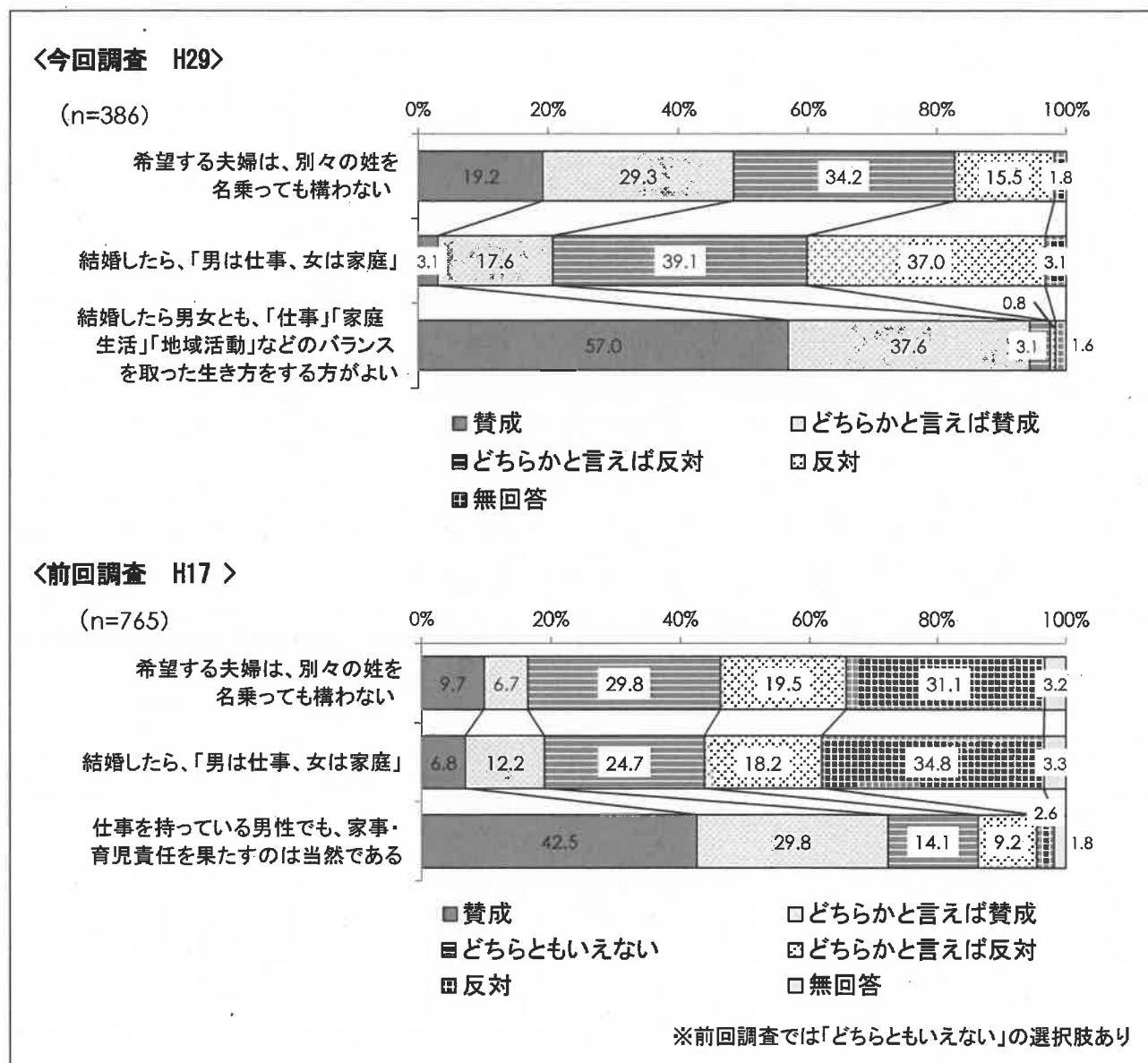


【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」については『反対』の割合が今回調査では49.7%、前回調査では50.6%となっており、やや減少傾向にあります。

また、「結婚したら、「男は仕事、女は家庭」」については、『反対』の割合が今回調査(76.1%)が前回調査(53.0%)を23.1ポイント大きく上回っており、結婚や家庭についての考え方の変化がうかがえます。

図表 12 結婚・離婚・家庭についての考え方（前回との比較）



2 家庭生活における男女の役割分担について

【問4で「配偶者・パートナー」と一緒に住んでいると回答した方のみ】

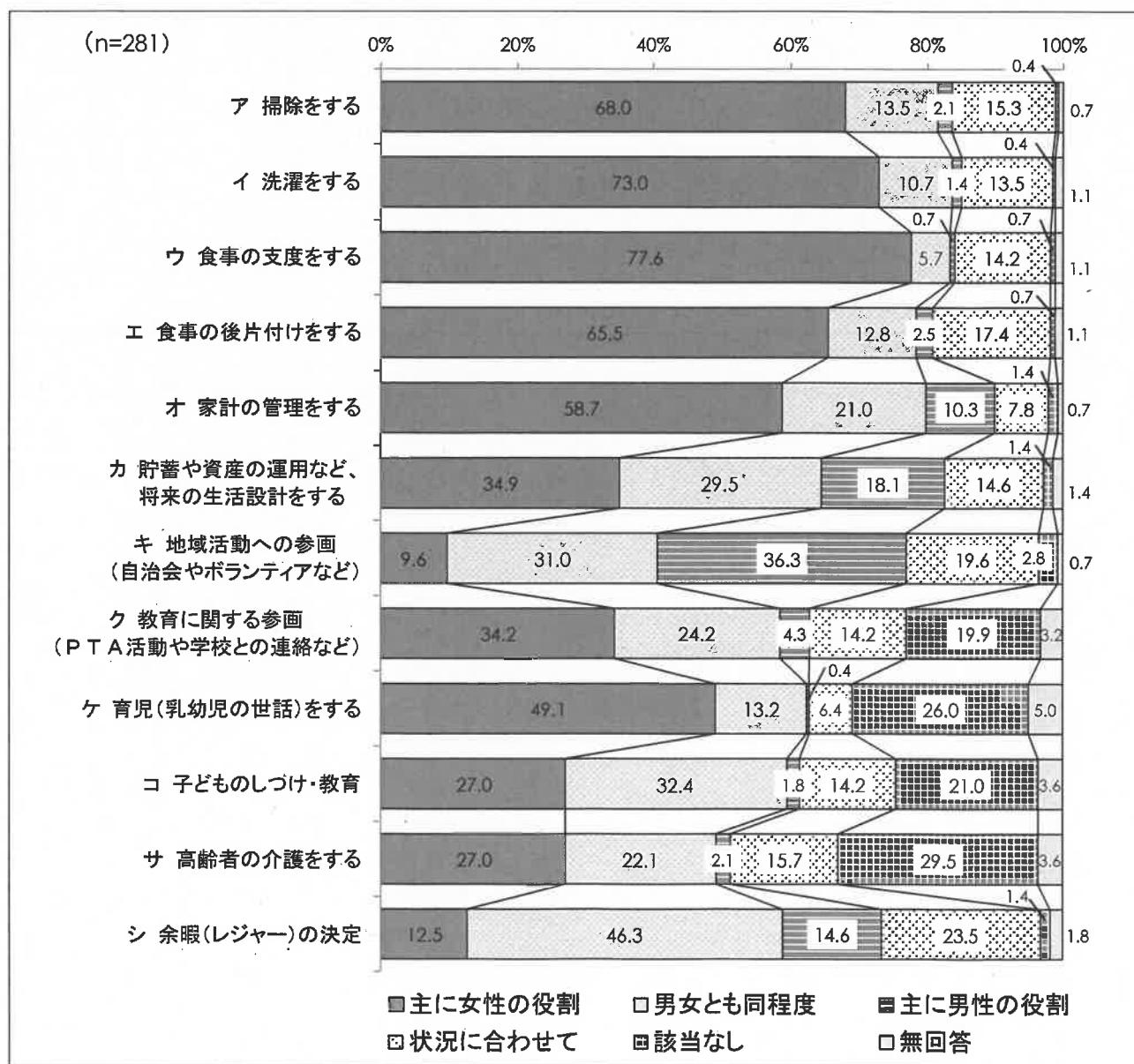
問11 あなたのご家庭では、今、下記の項目についてどのような役割分担になっていますか。
ア～シのそれぞれの項目について、該当する番号を1つ〇で囲んでください。

【全体の傾向】

配偶者又はパートナーがいる方に対し、家庭での役割分担についてたずねたところ、「地域活動への参画（自治会やボランティアなど）」については「主に男性の役割」（36.3%）、「高齢者の介護をする」については「該当なし」（29.5%）がそれぞれ最も高く、また、「子どものしつけ・教育」、「余暇（レジャー）の決定」については「男女とも同程度」が約3割～4割程度を占め、最も高くなっています。

一方、上記の項目以外では「主に女性の役割」が高い割合を占め、家庭生活での女性の役割が多くなっており、特に「食事の支度をする」（77.6%）、「洗濯をする」（73.0%）では7割を超えています。

図表 13 家庭生活における男女の役割分担について（全体）

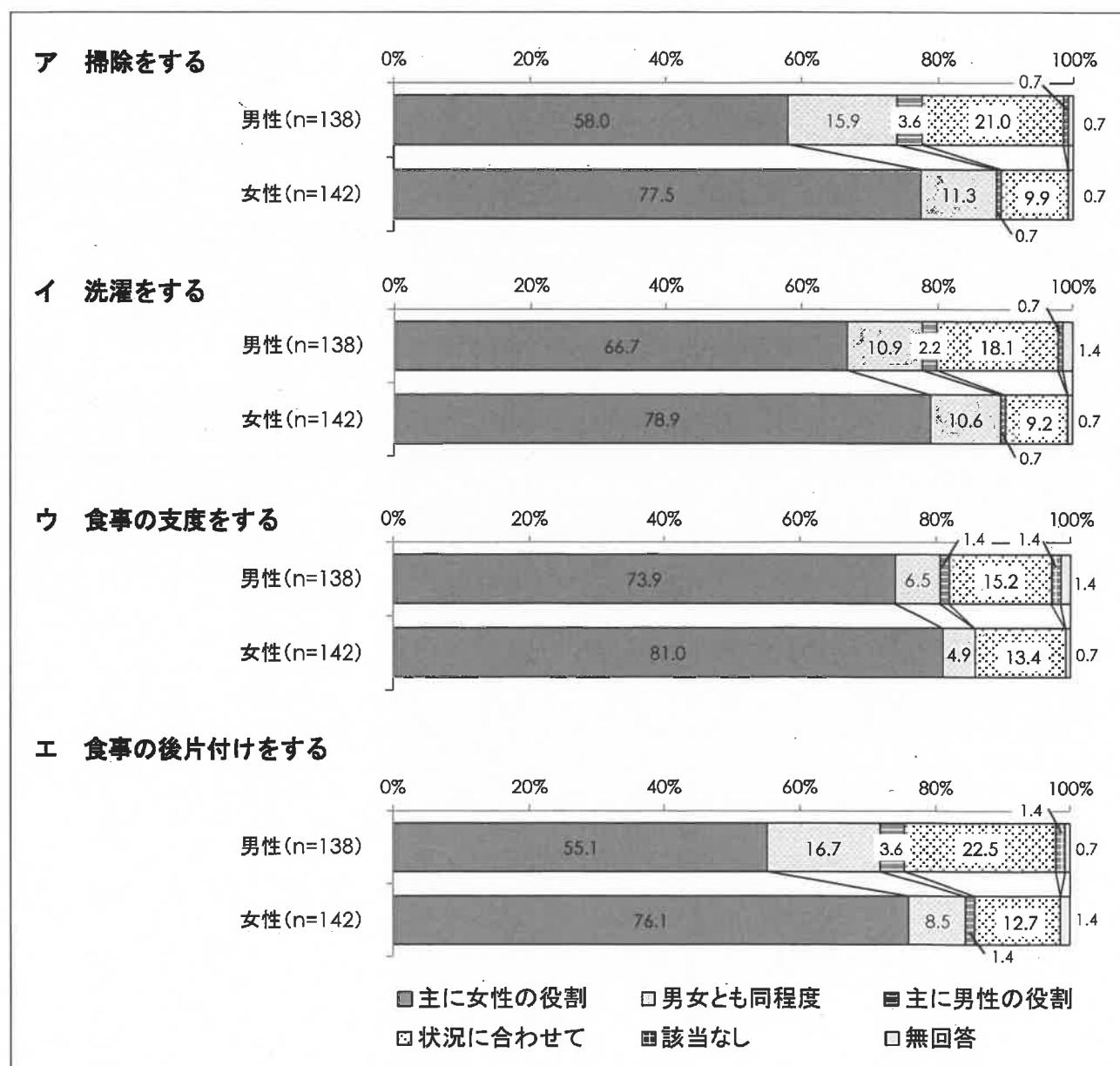


【属性別の傾向 男女別】

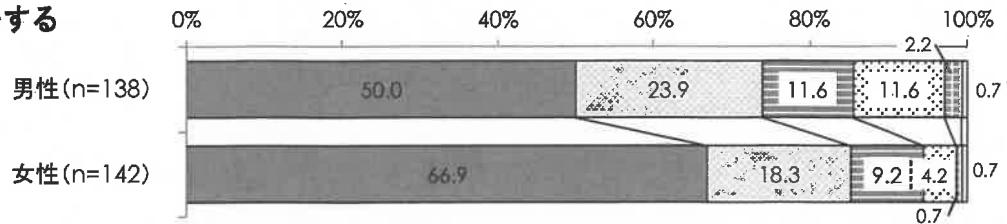
男女別にみると、「掃除をする」、「洗濯をする」、「食事の後片付けをする」、「家計の管理をする」、「貯蓄や資産の運用など、将来の生活設計をする」、「教育に関する参画（PTA活動や学校との連絡など）」、「子どものしつけ・教育」、「高齢者の介護をする」などでは、男女ともに「主に女性の役割」との回答が多くなっていますが、その割合は、女性が男性の割合を大きく上回っています。一方、「男女とも同程度」の割合では、男性が女性の割合を上回るものが多く、男性は「男女とも同程度」だと感じていることが、女性はそれほど感じていないという結果となっています。

また、「地域活動への参画（自治会やボランティアなど）」については、男性では「主に男性の役割」が42.8%と最も高くなっていますが、女性では「男女とも同程度」(32.4%)が最も高くなっていますが、認識の違いがみられます。

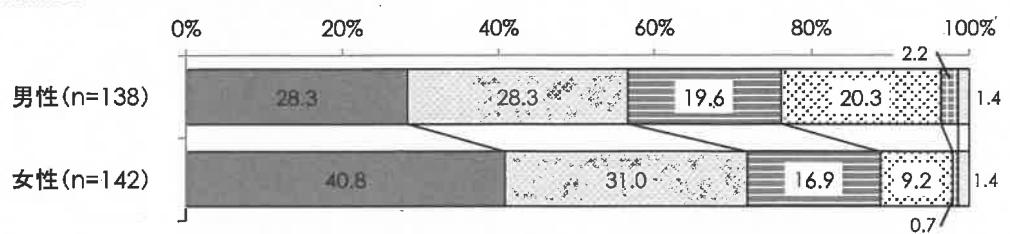
図表 14 家庭生活における男女の役割分担について（男女別）



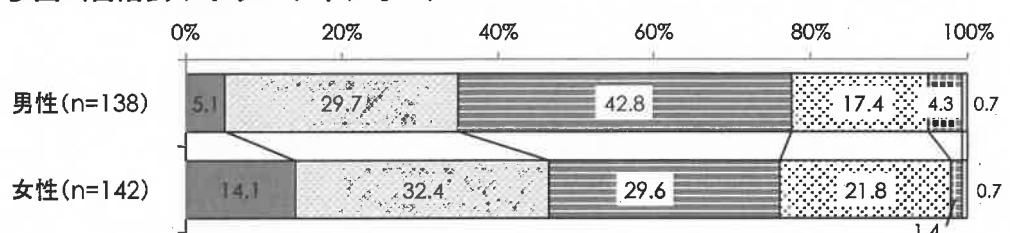
オ 家計の管理をする



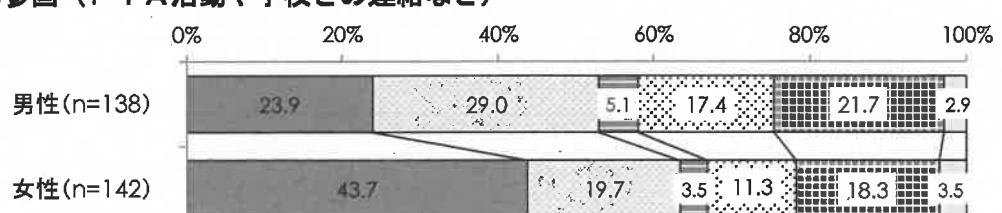
カ 賢蓄や資産の運用など、将来の生活設計をする



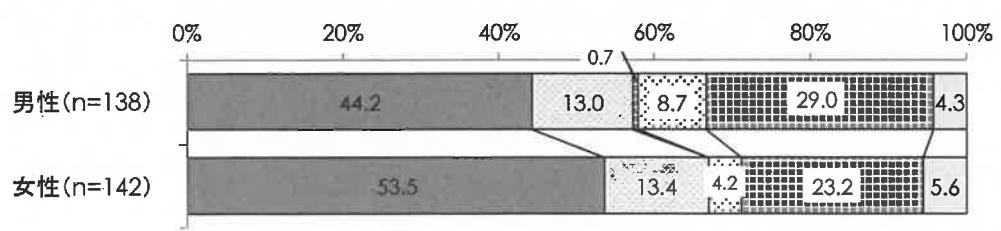
キ 地域活動への参画（自治会やボランティアなど）



ク 教育に関する参画（PTA活動や学校との連絡など）

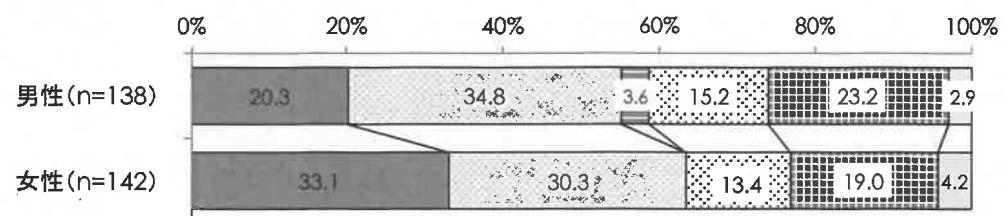


ケ 育児（乳幼児の世話）をする

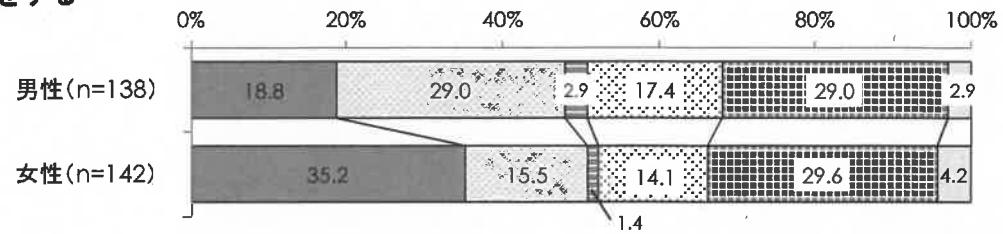


■ 主に女性の役割
□ 状況に合わせて
□ 男女とも同程度
■ 該当なし
□ 主に男性の役割
□ 無回答

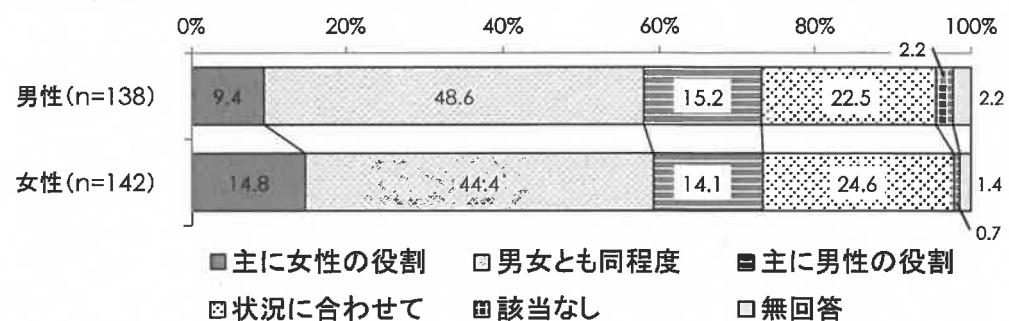
コ 子どものしつけ・教育



サ 高齢者の介護をする



シ 余暇（レジャー）の決定

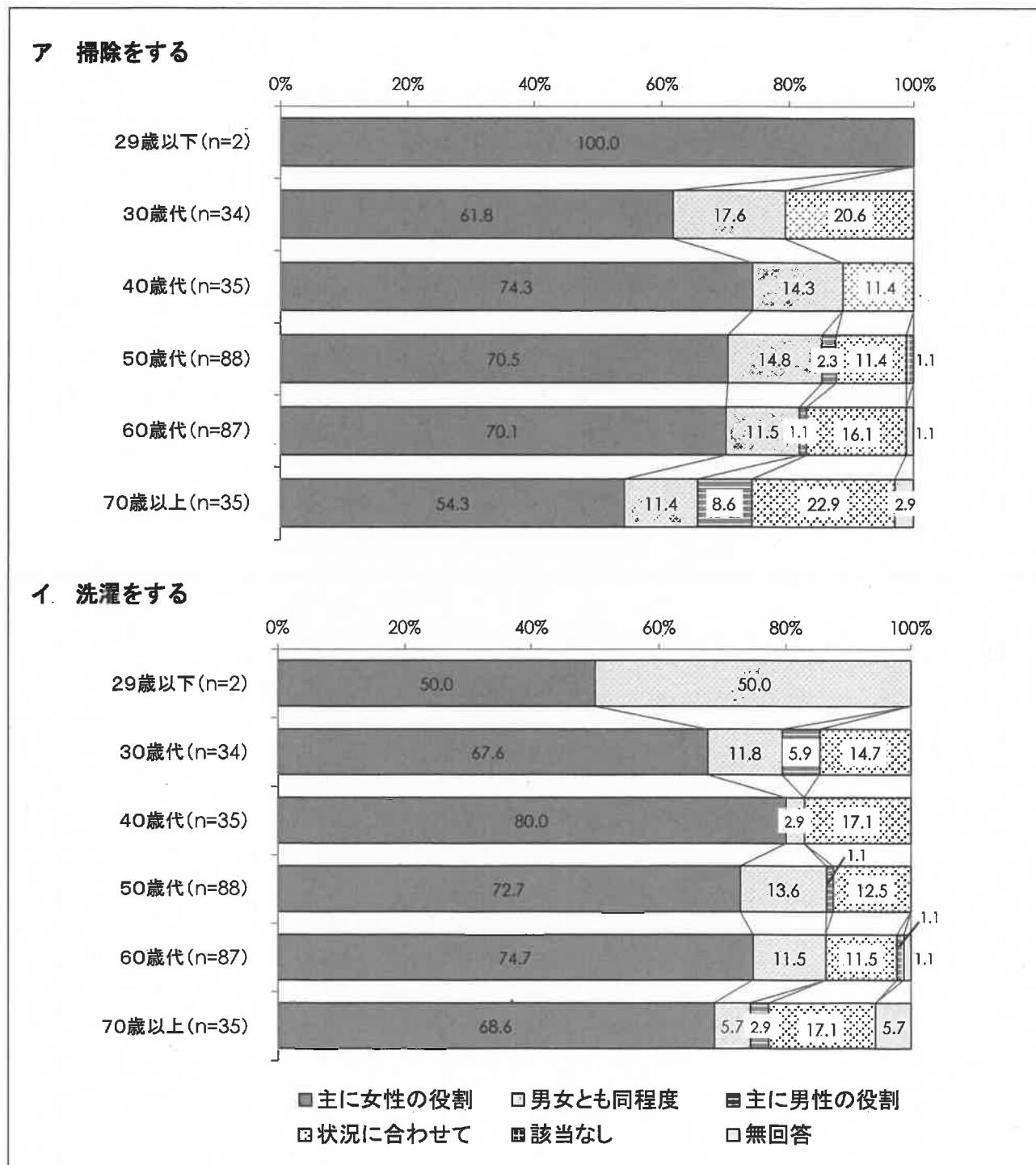


【属性別の傾向 年代別】

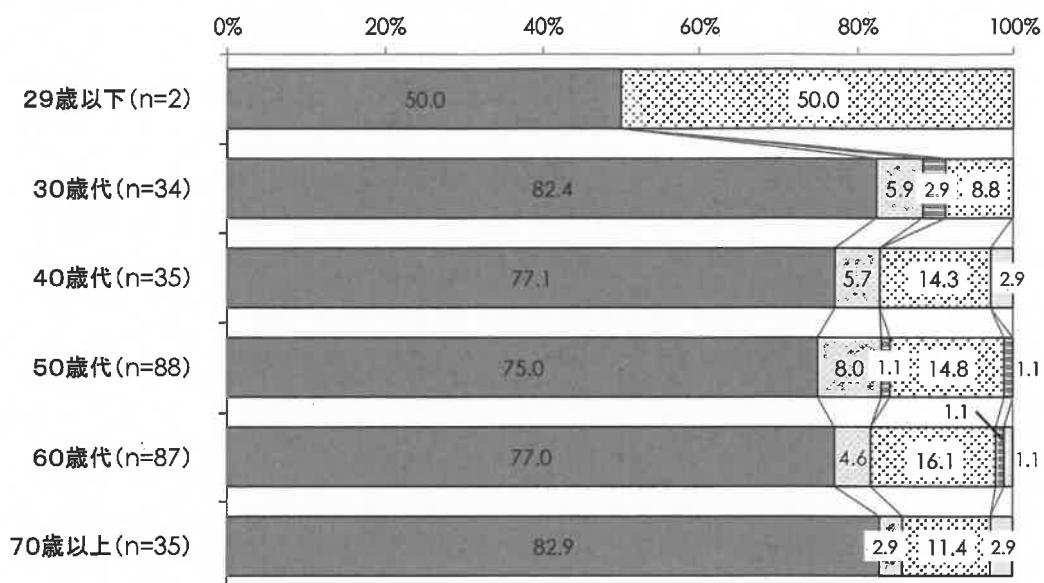
年代別にみると、「貯蓄や資産の運用など、将来の生活設計をする」については、30～50歳代では「主に女性の役割」の割合が最も高くなっています。一方、60歳以上の年齢層では「男女とも同程度」の割合が最も高くなっています。

また、「地域活動への参画（自治会やボランティアなど）」については30歳代では「男女とも同程度」が最も高くなっていますが、30歳代以外の年齢層では「主に男性の役割」が最も高くなっています。

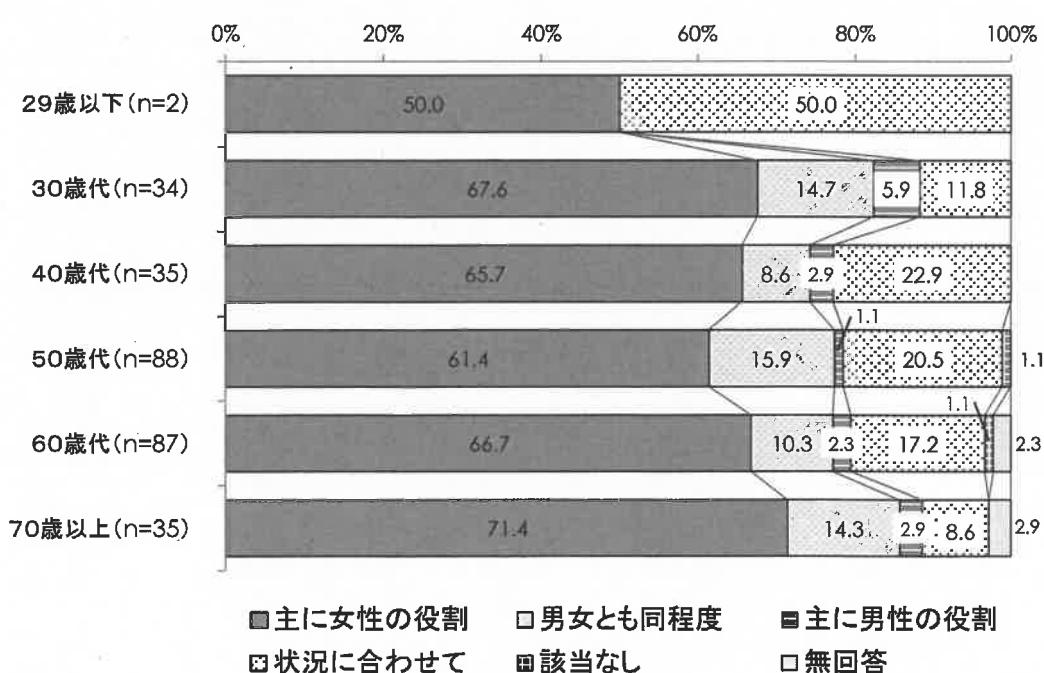
図表 15 家庭生活における男女の役割分担について（年代別）



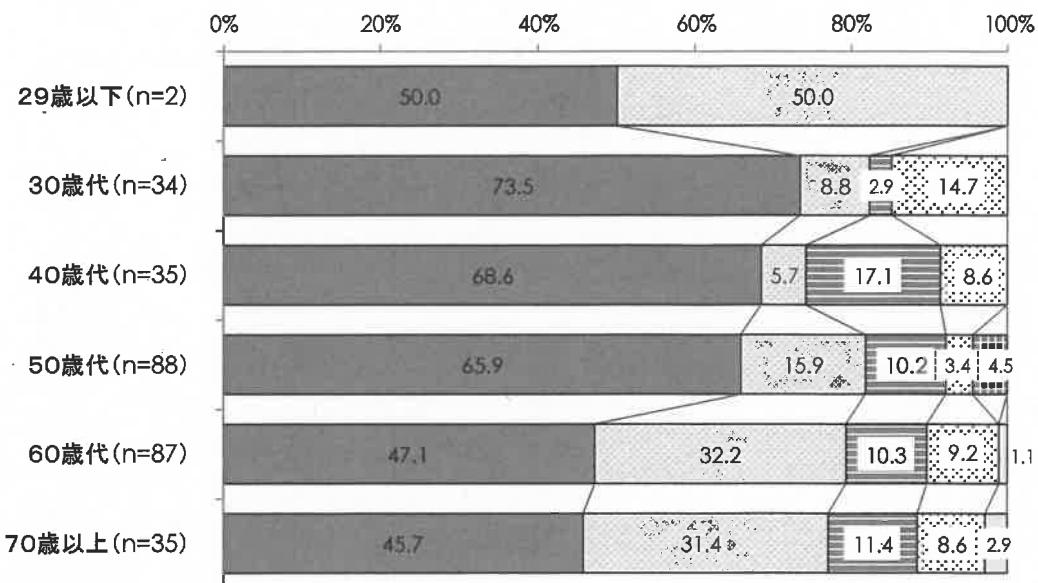
ウ 食事の支度をする



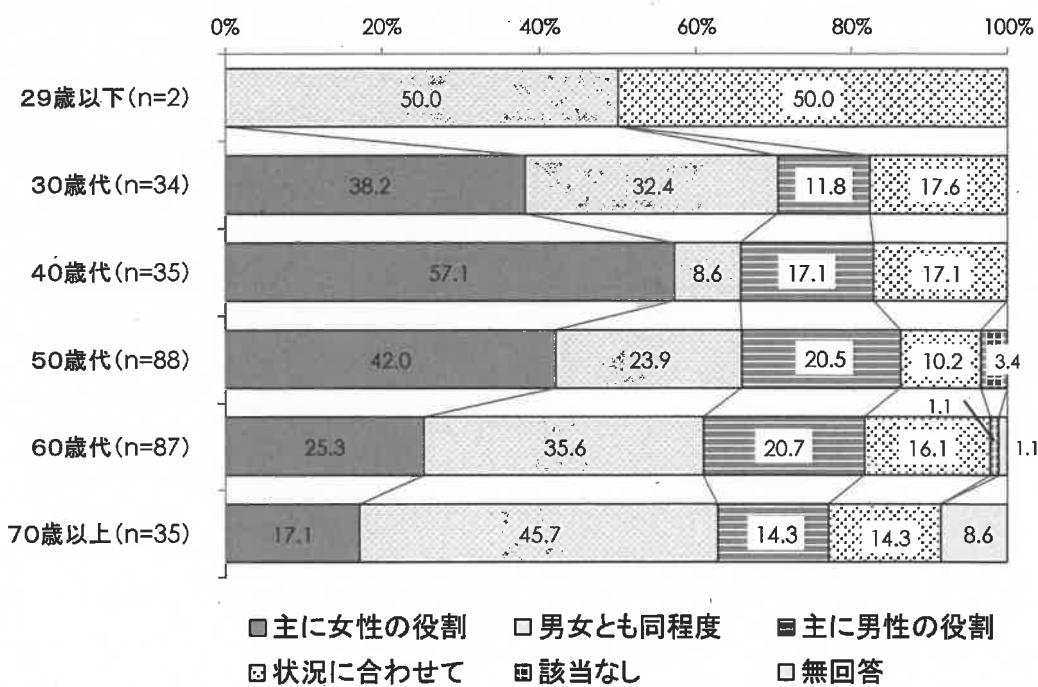
エ 食事の後片付けをする



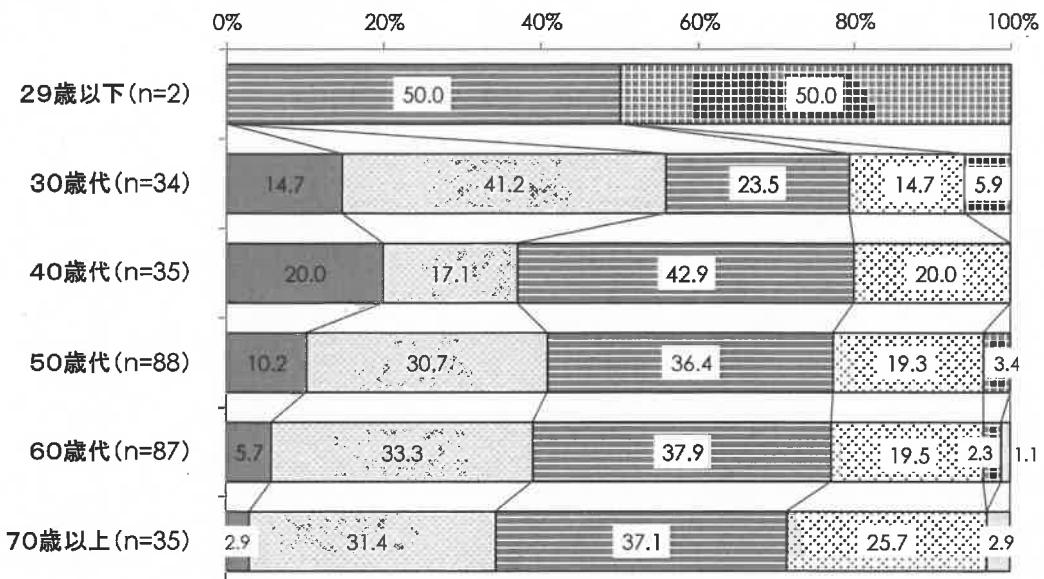
才 家計の管理をする



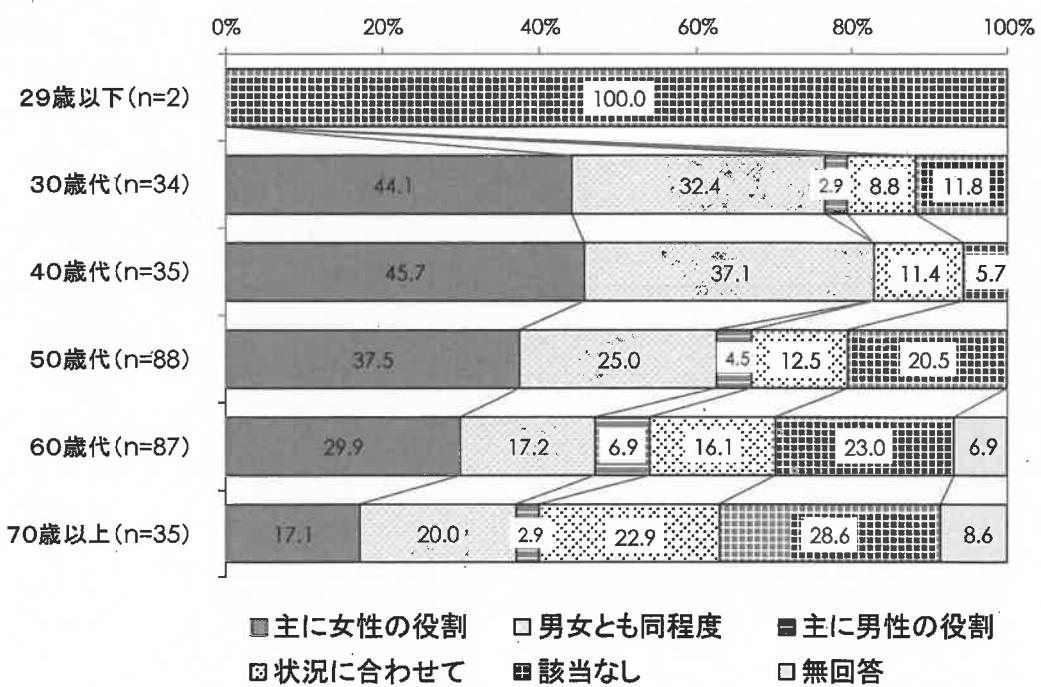
力 賄蓄や資産の運用など、将来の生活設計をする



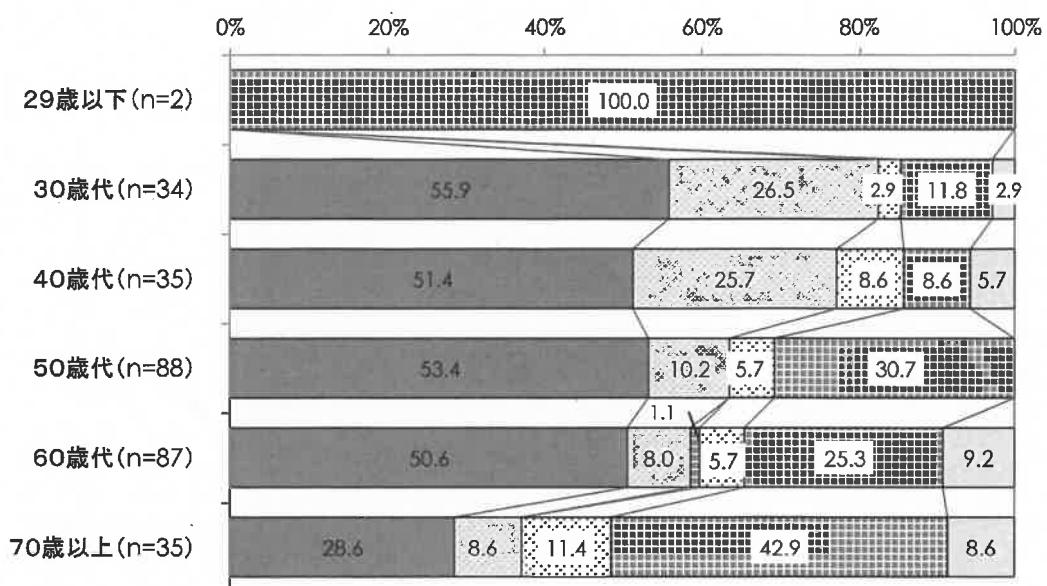
キ 地域活動への参画（自治会やボランティアなど）



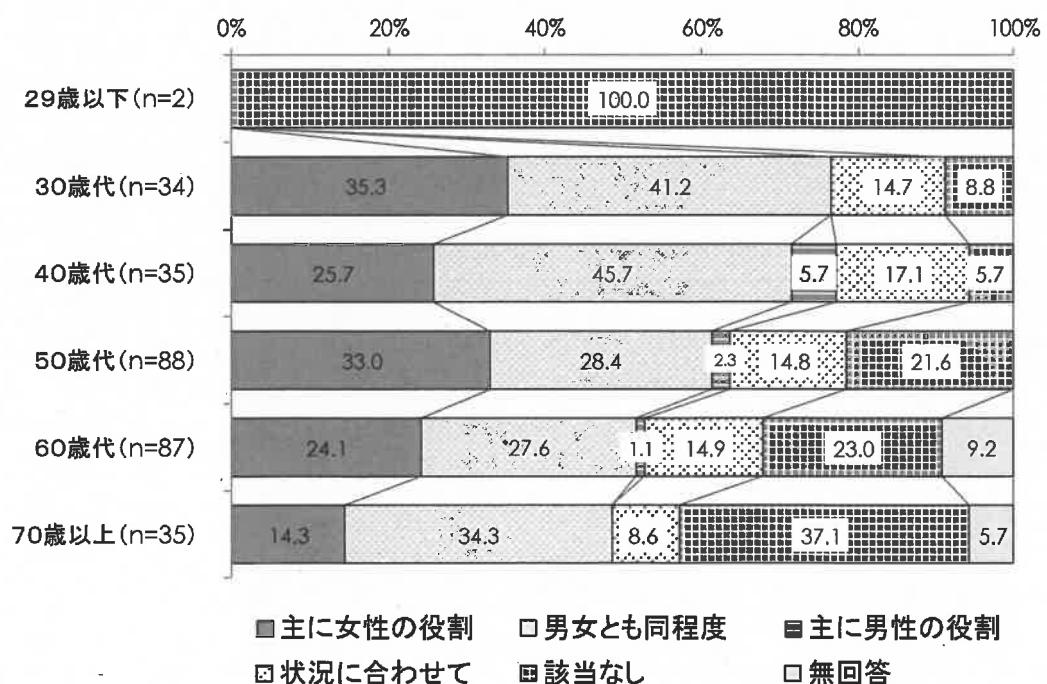
ク 教育に関する参画（PTA活動や学校との連絡など）



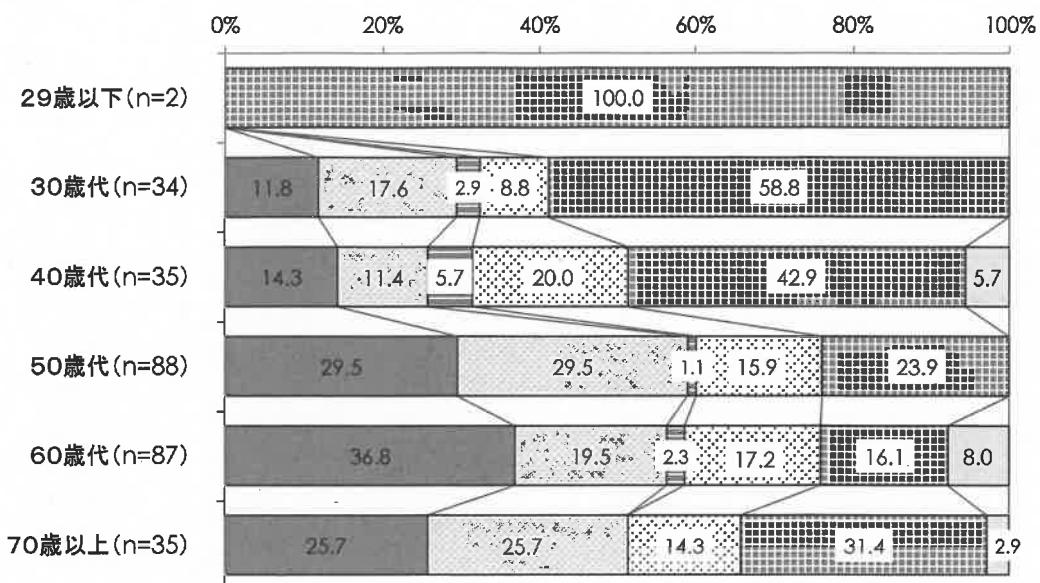
ケ 育児（乳幼児の世話）をする



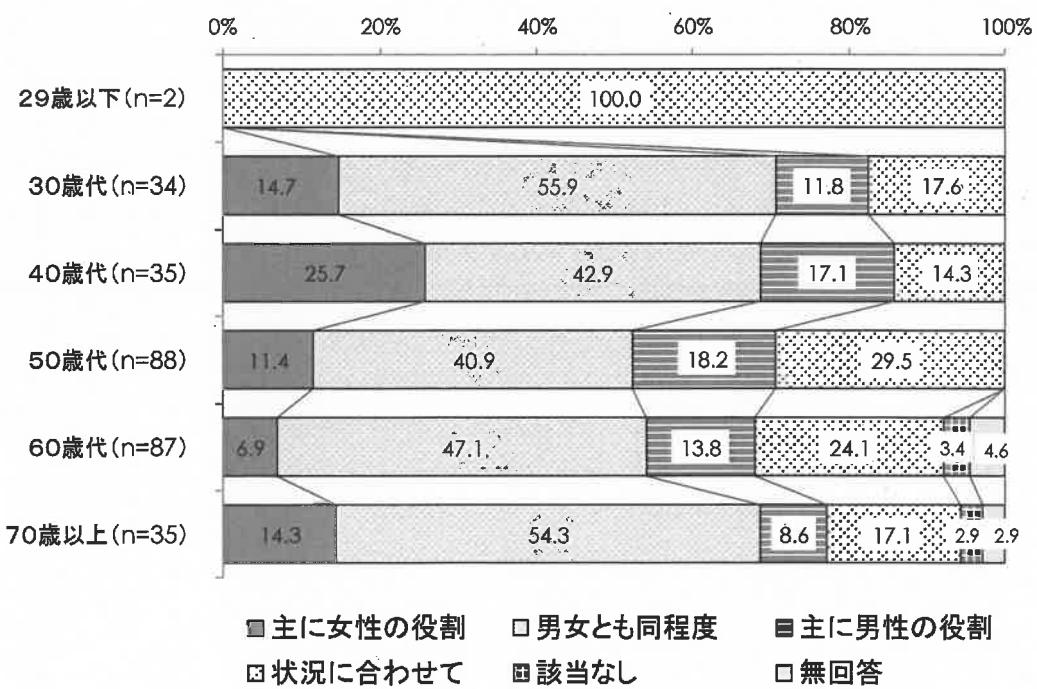
コ 子どものしつけ・教育



サ 高齢者の介護をする



シ 余暇（レジャー）の決定



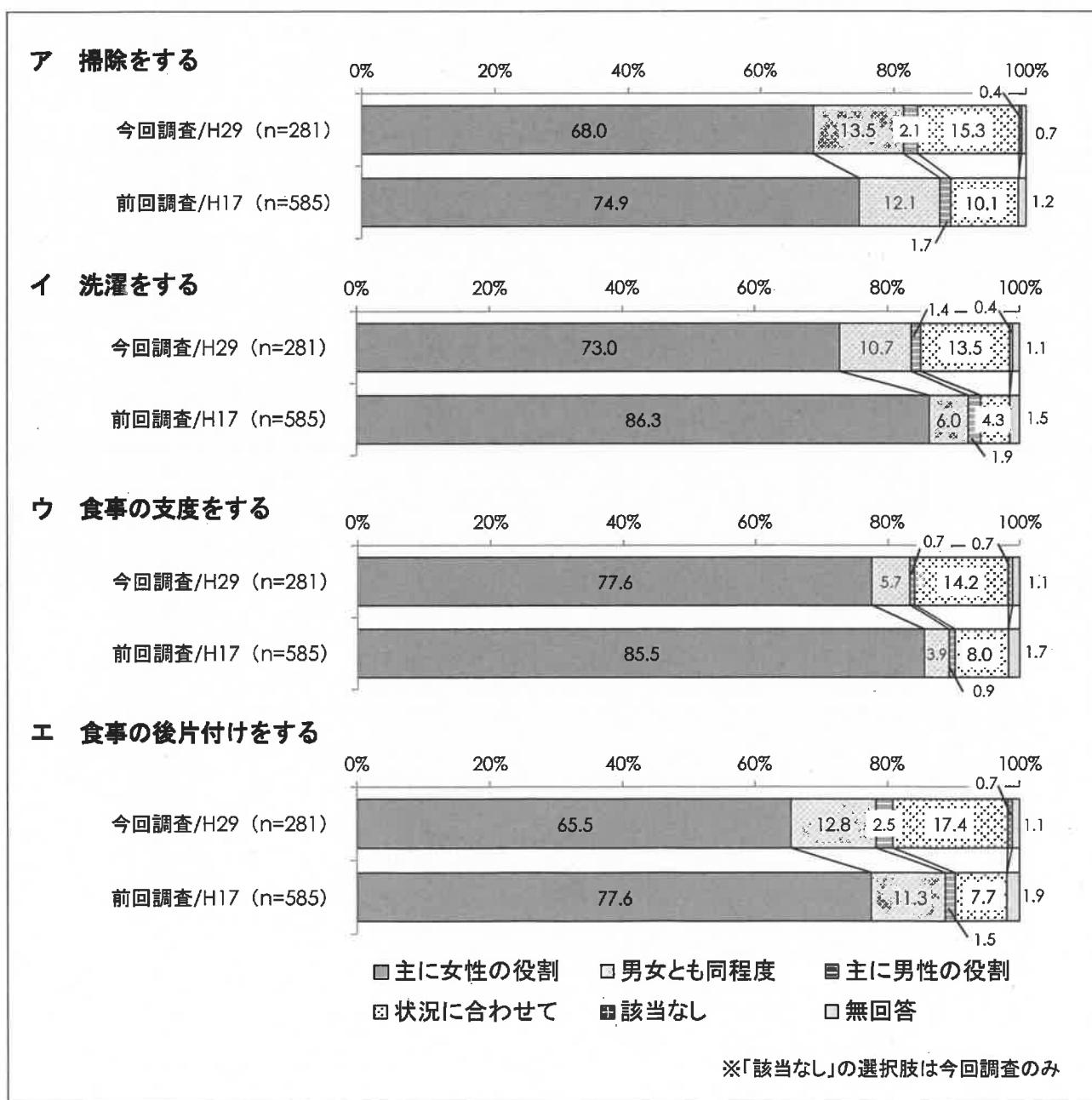
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「主に女性の役割」の割合が大きく減少した項目は「高齢者の介護をする」(15.4 ポイント減)、「洗濯をする」(13.3 ポイント減)、「食事の後片付けをする」(12.1 ポイント減)、「家計の管理をする」(10.0 ポイント減)などとなっており、主に女性の役割であることには変わりはありませんが、その割合はやや減少傾向にあります。

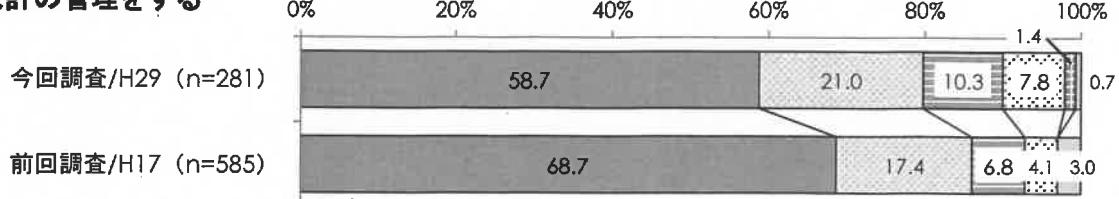
また、「地域活動への参画（自治会やボランティアなど）」については「主に男性の役割」が前回調査での 23.9%から今回調査では 36.3%と 12.4 ポイント増加しています。

一方、「貯蓄や資産の運用など、将来の生活設計をする」については、前回調査では「主に男性の役割」が 26.5%でしたが、今回調査では 18.1%と減少し、「主に女性の役割」、「男女とも同程度」の割合がそれぞれ増加し、家庭生活における役割分担に変化がみられます。

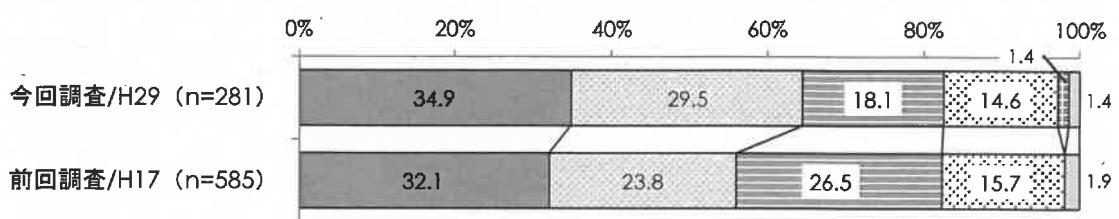
図表 16 家庭生活における男女の役割分担について（前回との比較）



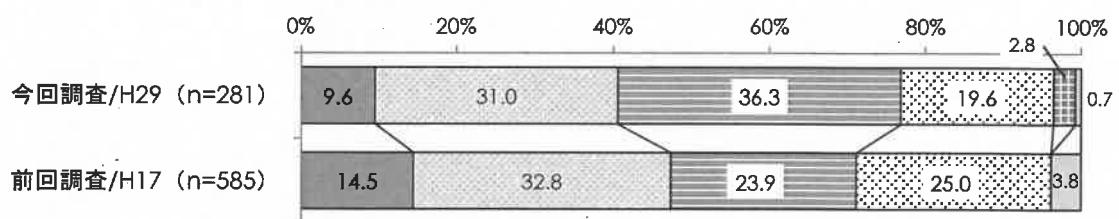
オ 家計の管理をする



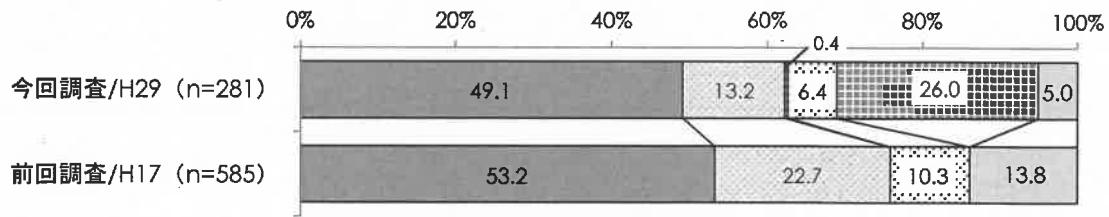
カ 貯蓄や資産の運用など、将来の生活設計をする



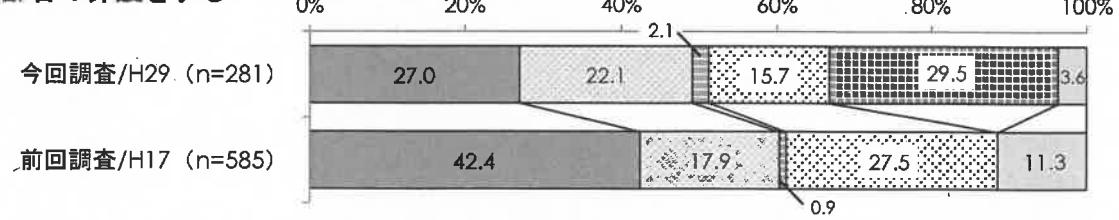
キ 地域活動への参画（自治会やボランティアなど）



ケ 育児（乳幼児の世話）をする



サ 高齢者の介護をする



■ 主に女性の役割 □ 男女とも同程度 ▨ 主に男性の役割
 □ 状況に合わせて ■ 該当なし □ 無回答

※「該当なし」の選択肢は今回調査のみ

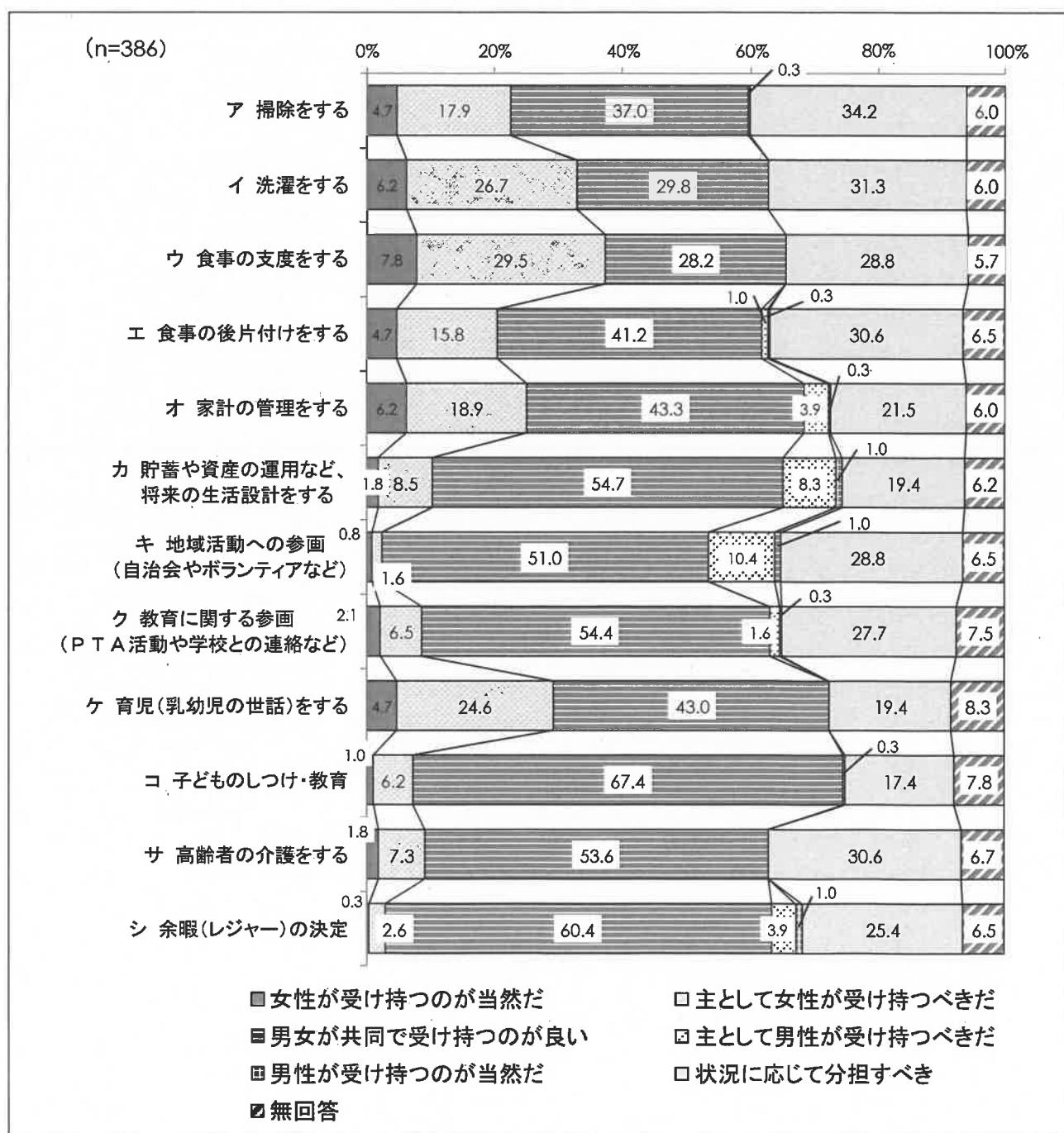
問12 家事・育児・介護の役割分担について、あなたはどのようにお考えですか。次のア～シのそれぞれの項目について、該当する番号を1つ〇で囲んでください。

【全体の傾向】

家事・育児・介護の役割分担に関する考え方についてたずねたところ、「洗濯をする」「食事の支度をする」については、「女性が受け持つのが当然だ」と「主として女性が受け持つべきだ」を合わせた『女性が受け持つべき』の割合が高く、家庭生活での役割分担と同様の結果となっています。

一方、それ以外の項目については「男女が共同で受け持つのが良い」の割合が最も高くなっています。実際の家庭生活における役割分担とそれに関する考え方では結果に違いがみられます。

図表 17 家事・育児・介護の役割分担について（全体）



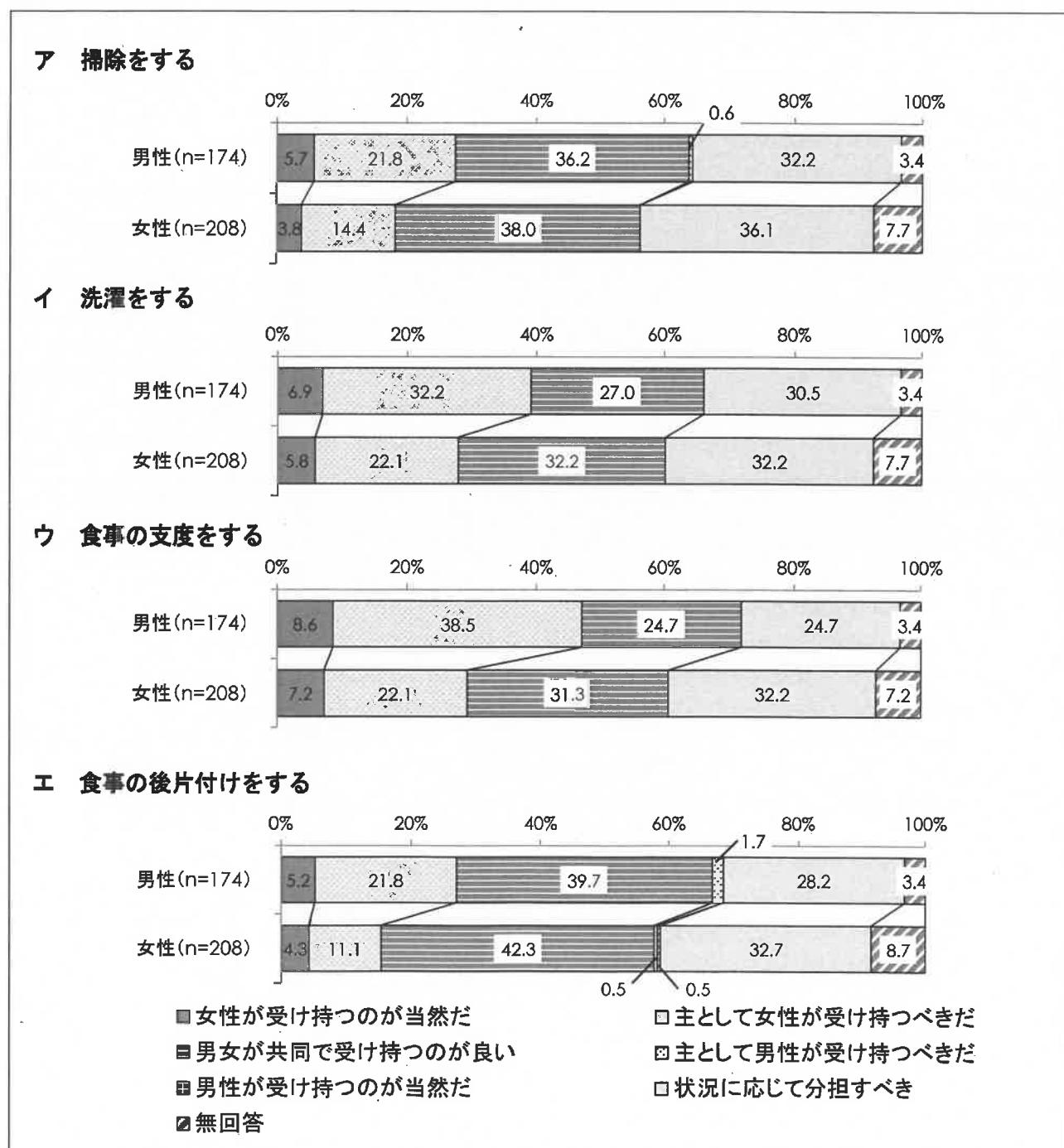
【属性別の傾向 男女別】

男女別にみると、ほとんどの項目で男女ともに「男女が共同で受け持つのが良い」の割合が最も高くなっています。一方、「洗濯をする」については、男性では「主として女性が受け持つべきだ」(32.2%) が最も高く、女性では「男女が共同で受け持つのが良い」「状況に応じて分担すべき」(ともに 32.2%) が高くなっています。

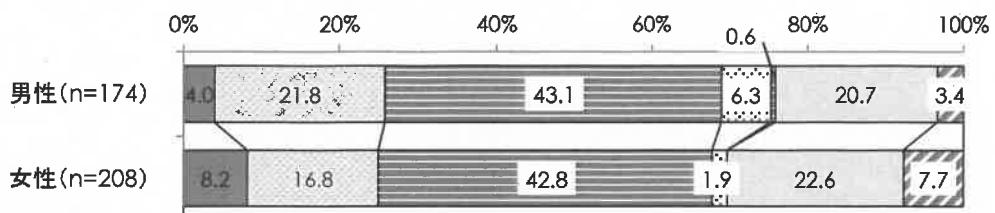
また、「食事の支度をする」についても、男性では「主として女性が受け持つべきだ」(38.5%) が最も高くなっていますが、女性では「状況に応じて分担すべき」(32.2%) が最も高くなっています。

これら2項目では、男性は主に女性がすべきだと考えていますが、女性は男女が共同で分担、もしくは、状況に応じて分担すべきとの考えが多く、男女の考えに違いがみられます。

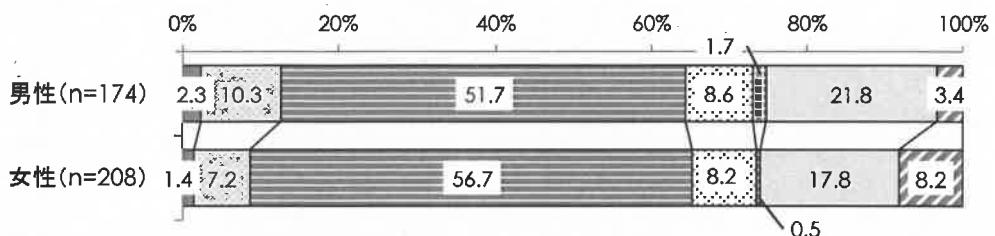
図表 18 家事・育児・介護の役割分担について（男女別）



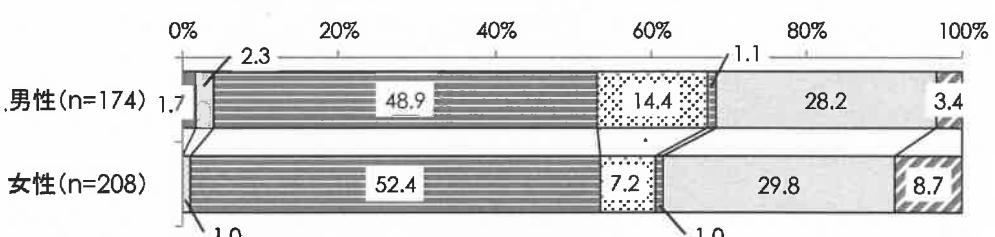
オ 家計の管理をする



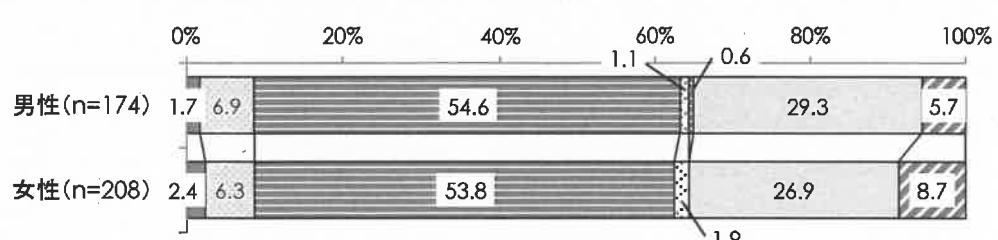
カ 貯蓄や資産の運用など、将来の生活設計をする



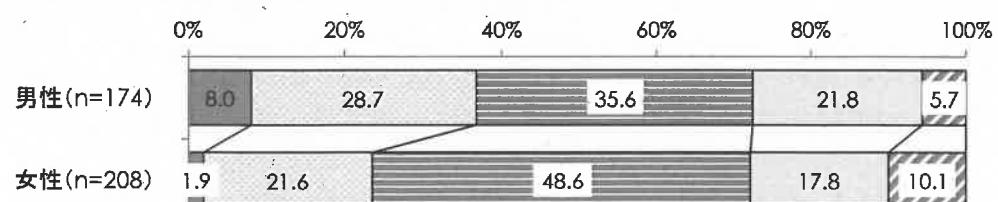
キ 地域活動への参画（自治会やボランティアなど）



ク 教育に関する参画（P T A活動や学校との連絡など）



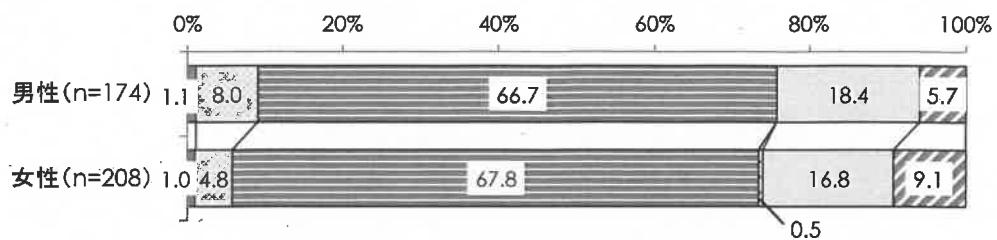
ケ 育児（乳幼児の世話）をする



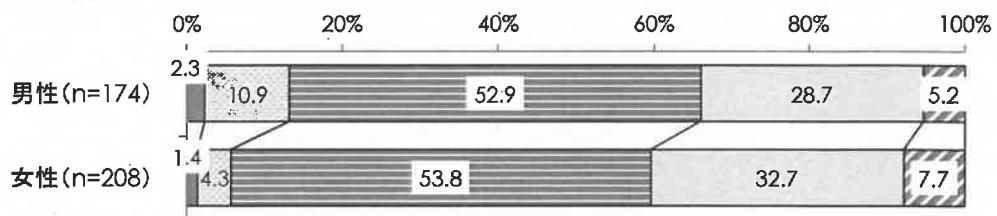
- 女性が受け持つのが当然だ
- 男女が共同で受け持つのが良い
- 男性が受け持つのが当然だ
- 無回答

- 主として女性が受け持つべきだ
- 主として男性が受け持つべきだ
- 状況に応じて分担すべき

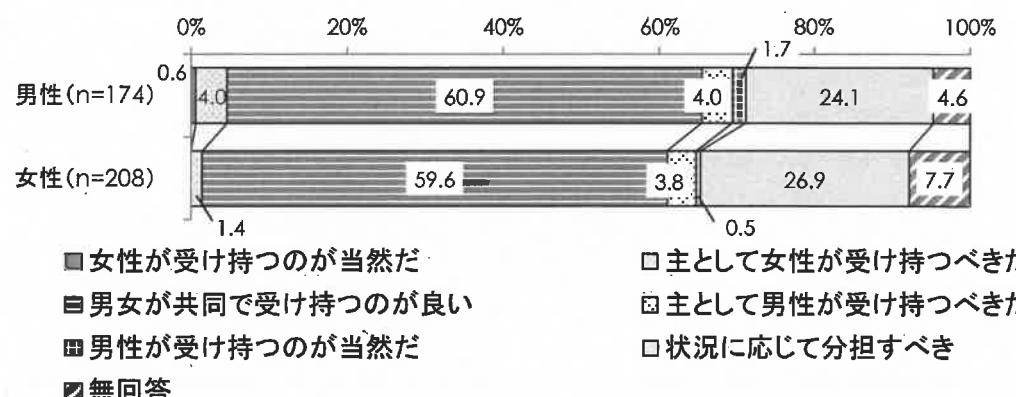
コ 子どものしつけ・教育



サ 高齢者の介護をする



シ 余暇（レジャー）の決定



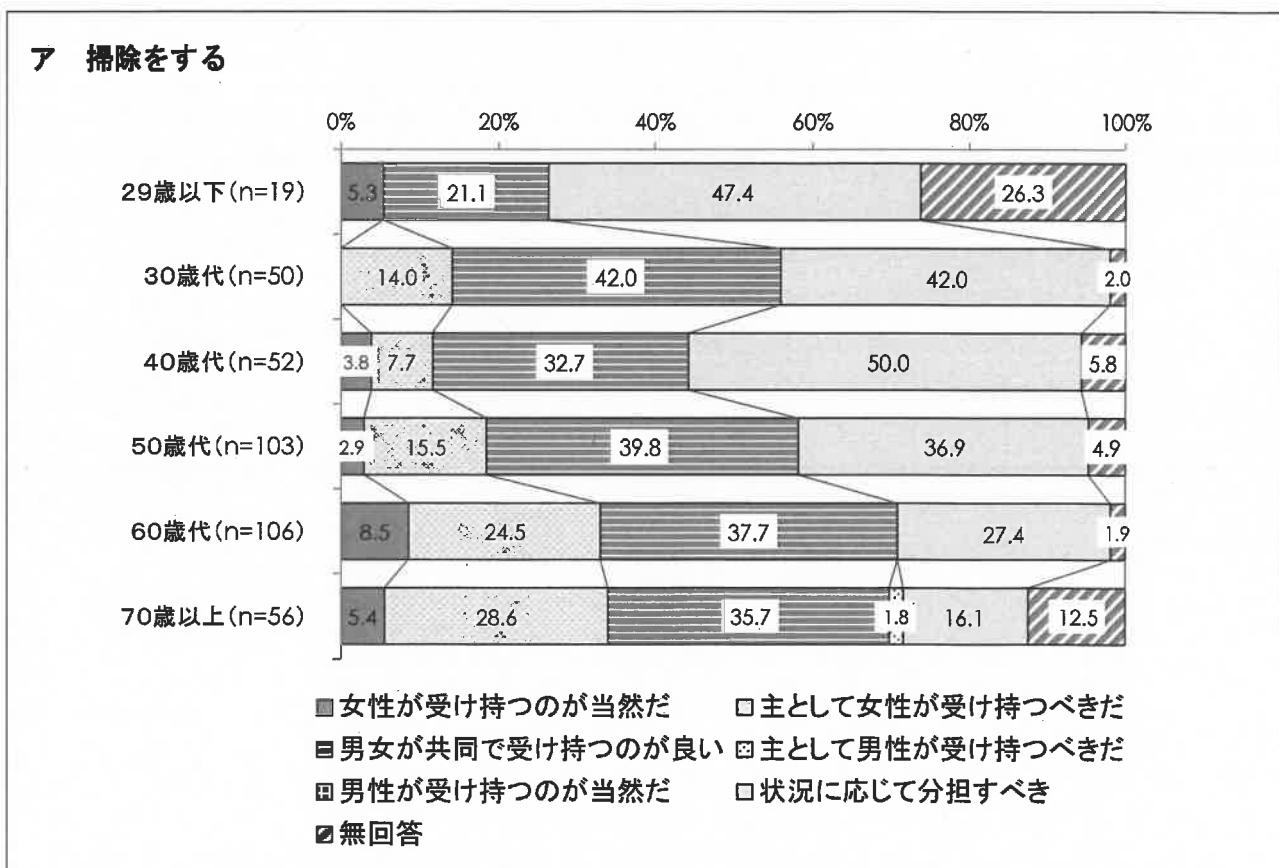
【属性別の傾向 年代別】

年代別にみると、「掃除をする」、「食事の後片付けをする」については、29歳以下、30歳代、40歳代では「状況に応じて分担すべき」割合が最も高く、50歳以上の年齢層では「男女が共同で受け持つのが良い」の割合が最も高くなっています。

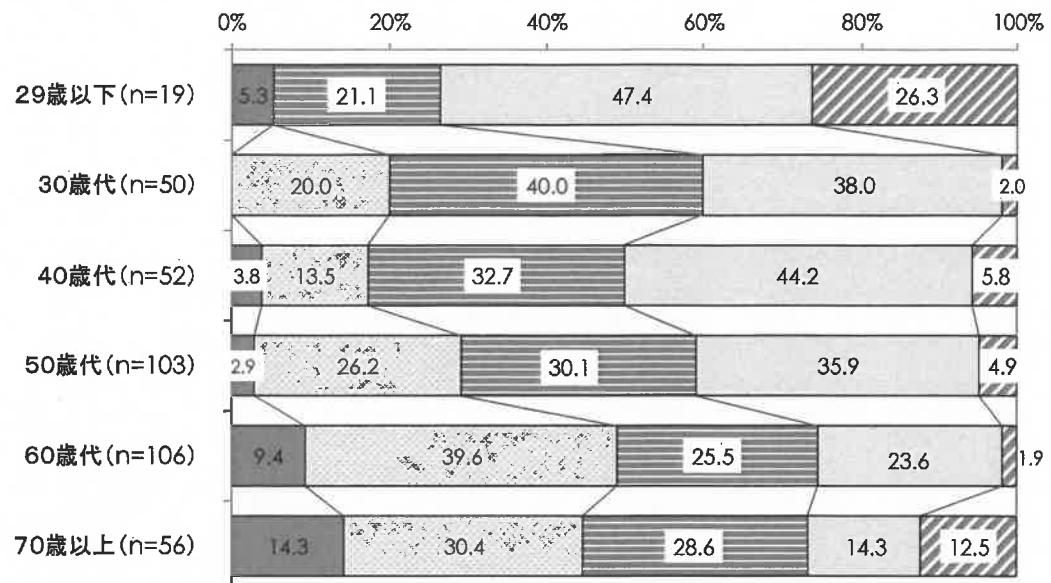
また、「食事の支度をする」については、29歳以下、30歳代、40歳代、50歳代では「状況に応じて分担すべき」が最も高くなっているのに対し、60歳以上の年齢層では「主として女性が受け持つべきだ」の割合が最も高く、年代によって考え方には違いがあります。

一方、「貯蓄や資産の運用など、将来の生活設計をする」、「地域活動への参画（自治会やボランティアなど）」、「教育に関する参画（PTA活動や学校との連絡など）」、「子どものしつけ、教育」、「高齢者の介護をする」、「余暇（レジャー）の決定」などでは、すべての年代で「男女が共同で受け持つのが良い」の割合が最も高くなっています。

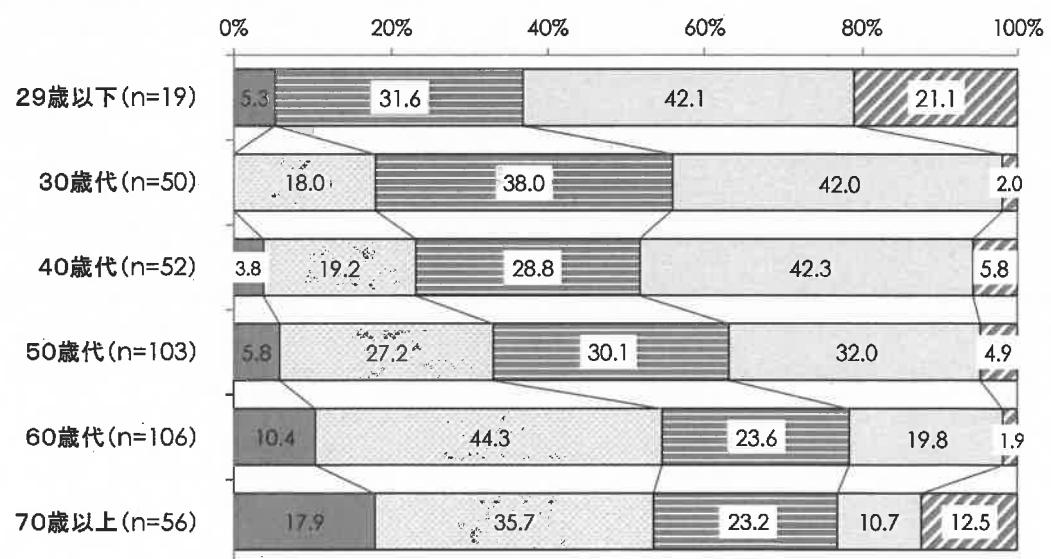
図表 19 家事・育児・介護の役割分担について（年代別）



イ 洗濯をする

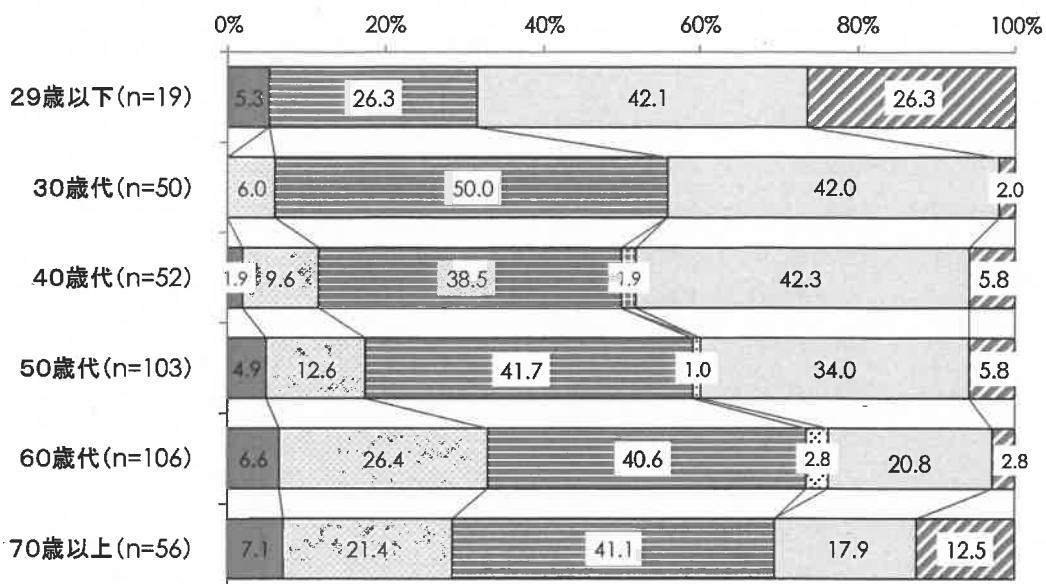


ウ 食事の支度をする

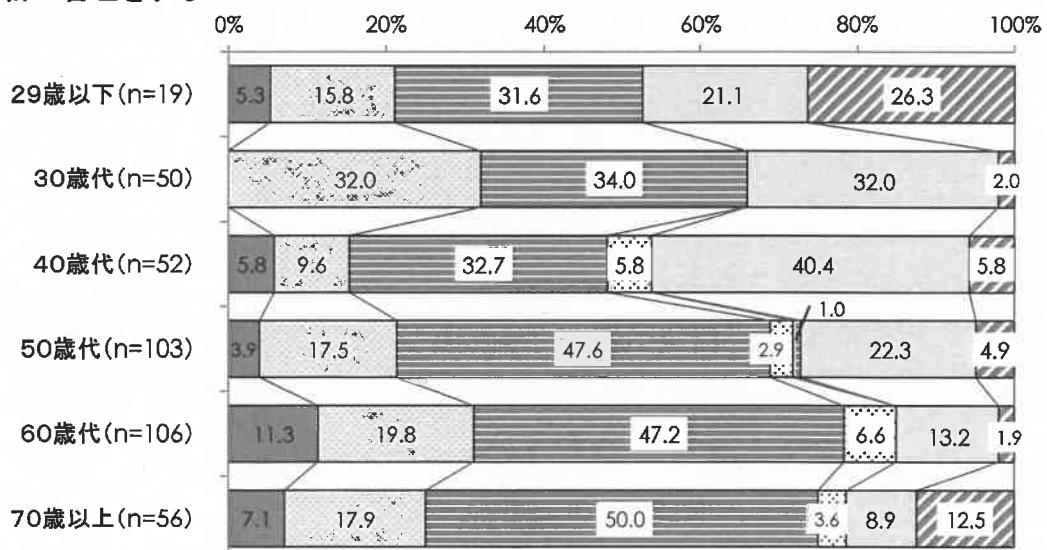


- 女性が受け持つのが当然だ □ 主として女性が受け持つべきだ
- 男女が共同で受け持つのが良い □ 主として男性が受け持つべきだ
- 男性が受け持つのが当然だ □ 状況に応じて分担すべき
- 無回答

工 食事の後片付けをする

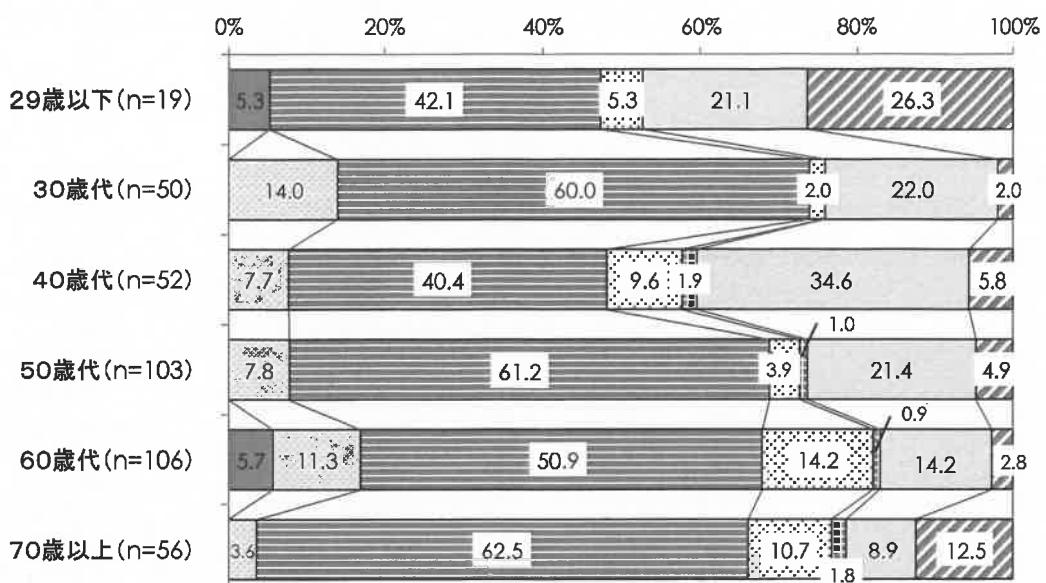


才 家計の管理をする

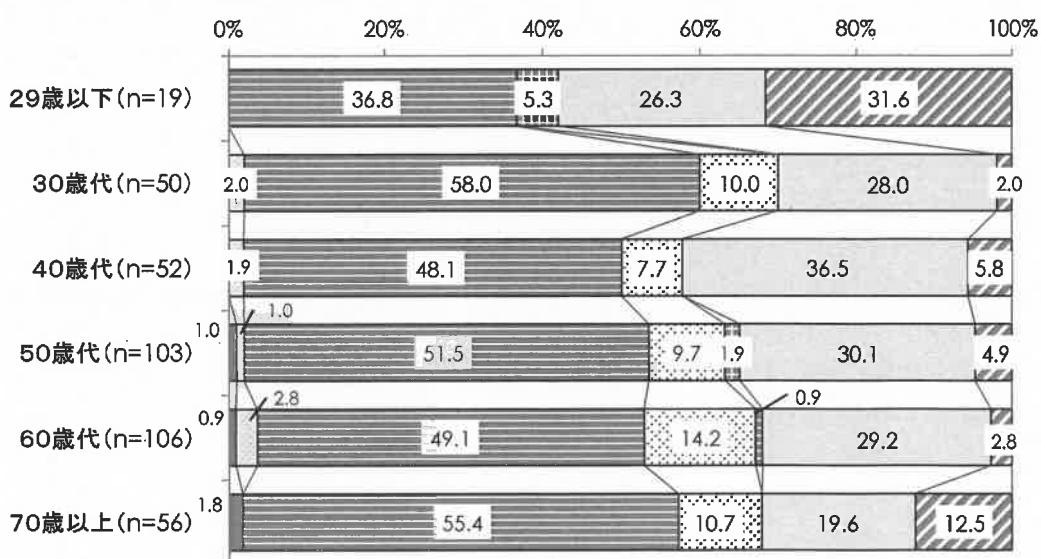


- 女性が受け持つのが当然だ □ 主として女性が受け持つべきだ
- 男女が共同で受け持つのが良い □ 主として男性が受け持つべきだ
- 男性が受け持つのが当然だ □ 状況に応じて分担すべき
- 無回答

力 貯蓄や資産の運用など、将来の生活設計をする

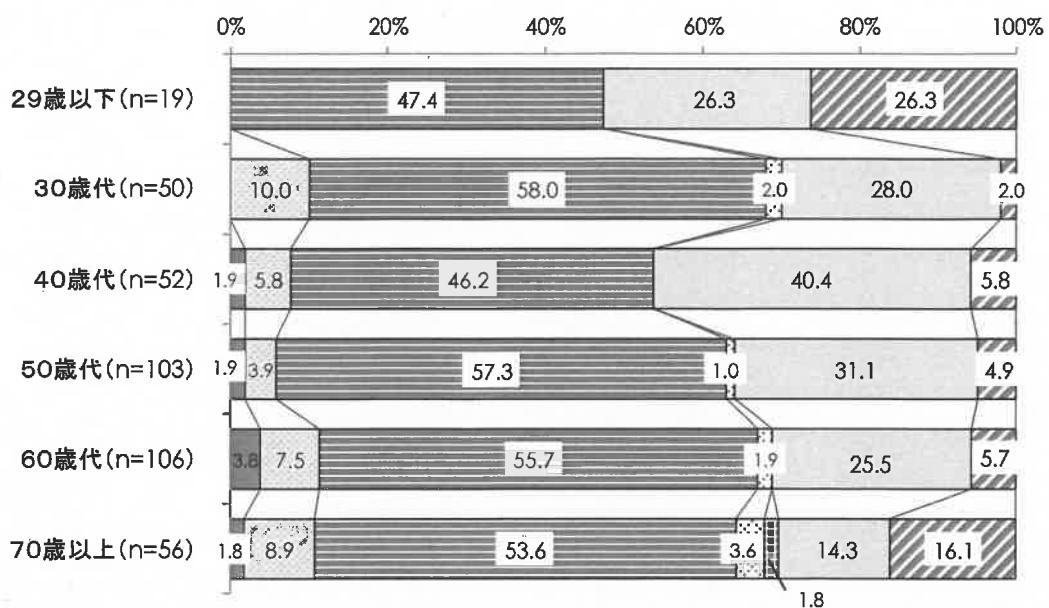


キ 地域活動への参画（自治会やボランティアなど）

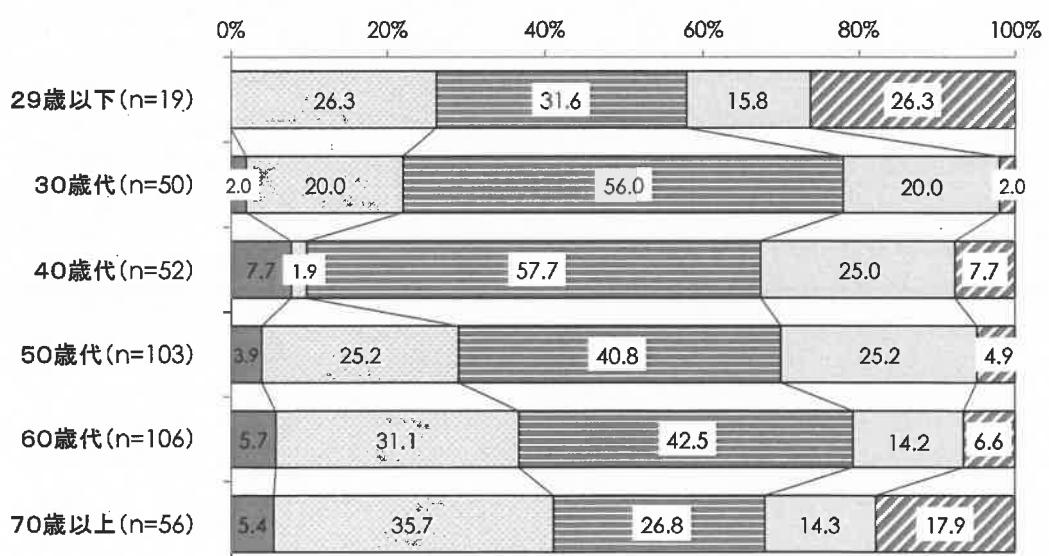


- 女性が受け持つのが当然だ □主として女性が受け持つべきだ
- 男女が共同で受け持つのが良い □主として男性が受け持つべきだ
- 男性が受け持つのが当然だ □状況に応じて分担すべき
- 無回答

ク 教育に関する参画 (PTA活動や学校との連絡など)

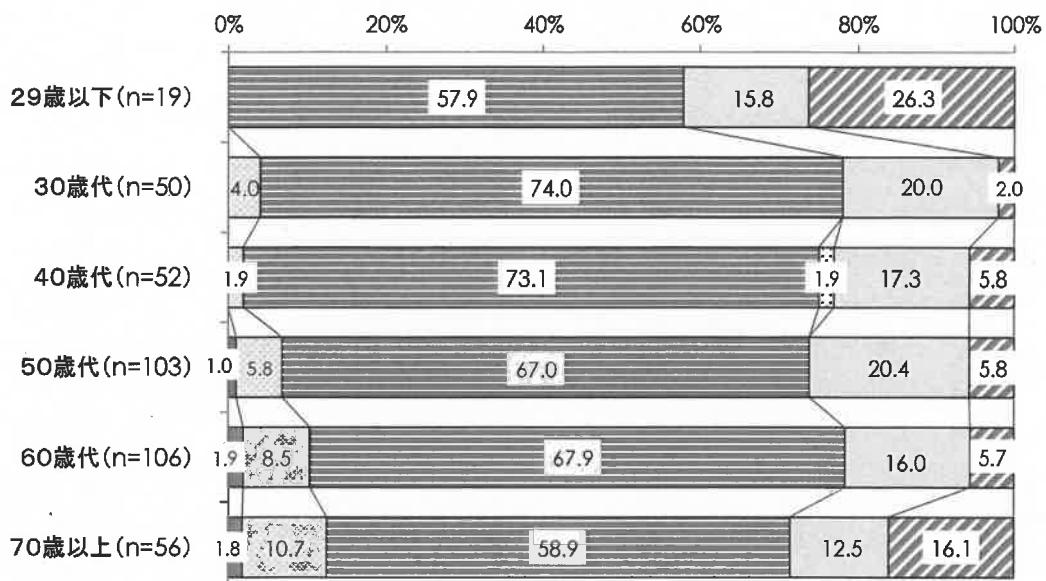


ケ 育児（乳幼児の世話）をする

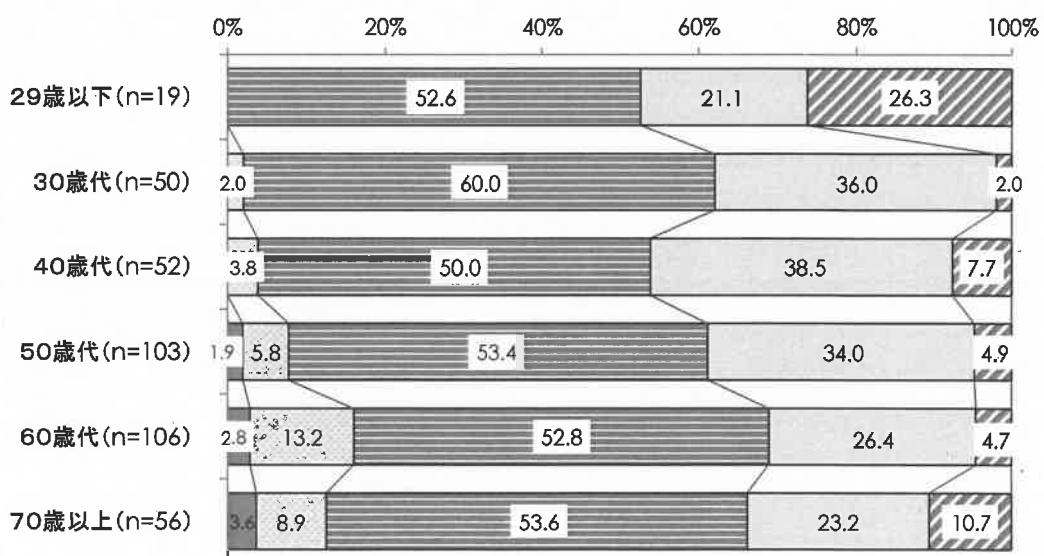


- 女性が受け持つのが当然だ □主として女性が受け持つべきだ
- 男女が共同で受け持つのが良い □主として男性が受け持つべきだ
- 男性が受け持つのが当然だ △状況に応じて分担すべき
- △無回答

コ 子どものしつけ・教育

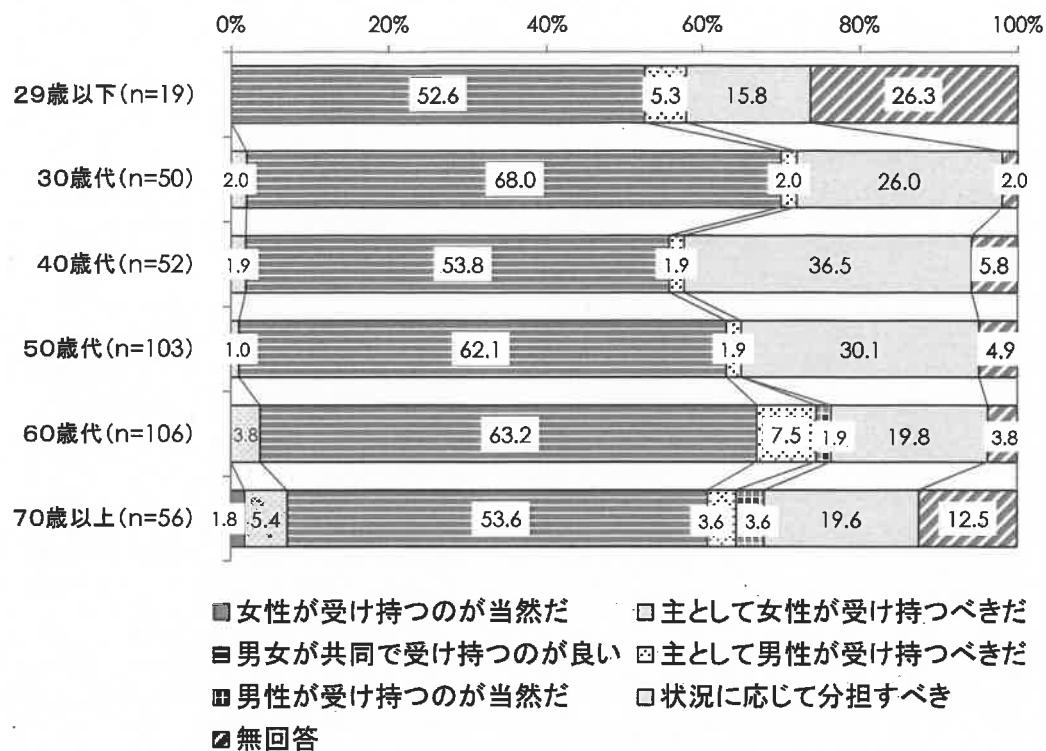


サ 高齢者の介護をする



- 女性が受け持つのが当然だ □ 主として女性が受け持つべきだ
- 男女が共同で受け持つのが良い □ 主として男性が受け持つべきだ
- 男性が受け持つのが当然だ □ 状況に応じて分担すべき
- 無回答

シ 余暇（レジャー）の決定



3 家事・育児・介護への男女共同参画について

問 13 今後、男性と女性ともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのような事が必要だと思いますか。最も必要だと思う順に3つ選び、その番号を回答欄に記入してください。

【全体の傾向】

家事・育児・介護への男女共同参画に必要だと思う事を点数化したところ、総合得点は「夫婦で家庭生活のあり方を十分話し合う」が328点で第1位となり、最も必要な項目となっています。次いで「労働時間の短縮や、育児・介護などの休暇制度を普及させる」が第2位、「家庭教育の中で、「互いに協力する」育て方やしつけをする」が第3位となっています。

また、『1番目に必要』だと思う項目として「男女の役割分担についての慣習を改める」をあげる人も多く、高得点となっています。

また『3番目に必要』だと思う項目としては、「学校教育の中で、男女が協力することの大切さを教える」や「男性の家事や育児・介護に参加・協力する意識を高める」、「男女共同（新しい生き方）に対する抵抗感をなくす」などが多くあげられています。

図表 20 家事・育児・介護への男女共同参画について（全体）

※点数の算出方法 各選択肢における回答数を次の方法で点数化

「1番目に必要」の回答数×3点

「2番目に必要」の回答数×2点

「3番目に必要」の回答数×1点

の総合得点が高いほど必要とされている項目となる

<単位:点>

	て男女の慣習役割を改め分担するについて	仕企組みを中心とする社会の	相談窓口の設置	度児労働を・普及護間のせどりの短縮休や暇、制育	夫婦十で家庭話し生合のあり	やい家庭しつ協力をする中育ての方互	関男女心を高め同参画に中するで、育て方互	男を改めめる仕事の考	なくすに共同めの仕事の考	男女を高めると共に新抵	識に参加する事や育児・意	求め過ぎ難い力や出世を	さが学校を協力教えるの	い現状で問題なく必要な
1番目に必要 (×3点)	195	81	18	180	198	129	54	63	39	69	15	39	12	
2番目に必要 (×2点)	52	38	20	102	94	118	50	48	58	78	12	50	0	
3番目に必要 (×1点)	27	14	7	29	36	36	20	17	43	53	14	59	3	
総合得点	274	133	45	311	328	283	124	128	140	200	41	148	15	

※ は必要だと思う順位における上位3位の項目

【属性別の傾向 男女別】

男女別に最も必要なことを総合得点でみると、第1位は、男性では「夫婦で家庭生活のあり方を十分話し合う」、女性では「労働時間の短縮や、育児・介護などの休暇制度を普及させる」、第2位は、男性では「労働時間の短縮や、育児・介護などの休暇制度を普及させる」、女性では「男女の役割分担についての慣習を改める」となっています。

また、『2番目に必要』だと思う項目としては、男性では「男性の仕事中心の考え方を改める」、女性では「男性の家事や育児・介護に参加・協力する意識を高める」などの意見も多くなっています。

「労働時間の短縮や休暇制度」、「家庭教育でのしつけ」などが今後の男女共同参画には必要だと考えは男女で共通していますが、さらに男性では夫婦間の話し合いや、仕事中心の考え方を改める、女性では男女の役割分担の慣習を改めることや、男性の家事や育児に関する意識の変化なども必要とされています。

図表 21 家事・育児・介護への男女共同参画について（男女別）

【男性】

て男女の慣習を改め分担するについての社会の	仕企組みを中心とする社会の	相談窓口の設置	度児労働時間を普及護管など短せるの短縮休や暇、制育	夫婦を十分話して家庭し生活のあり	やい家庭に庭教育をする中で育て一方互	男女心を共同参画に關する	方を改めめる仕事中心の考え	な方くすに共同へ新しい抵抗感生き	男女心を高めめる家事や育児・介護に参加する意	男性の家事や育児・協力する意	求め過ぎない経済力や出世を	さが学校を教えることでの大男切女	<単位:点>	
													い現状で問題なく必要な	
1番目に必要（×3点）	66	51	9	81	114	57	24	24	9	18	9	30	9	
2番目に必要（×2点）	30	18	8	46	52	50	26	34	16	32	6	12	0	
3番目に必要（×1点）	16	5	6	14	13	15	11	7	18	24	8	25	3	
総合得点	112	74	23	141	179	122	61	65	43	74	23	67	12	

【女性】

て男女の慣習を改め分担するについての社会の	仕企組みを中心とする社会の	相談窓口の設置	度児労働時間を普及護管など短せるの短縮休や暇、制育	夫婦を十分話して家庭し生活のあり	やい家庭に庭教育をする中で育て一方互	男女心を共同参画に關する	方を改めめる仕事中心の考え	な方くすに共同へ新しい抵抗感生き	男女心を高めめる家事や育児・介護に参加する意	男性の家事や育児・協力する意	求め過ぎない経済力や出世を	さが学校を教えることでの大男切女	<単位:点>	
													い現状で問題なく必要な	
1番目に必要（×3点）	129	30	9	96	81	69	30	39	30	51	6	9	3	
2番目に必要（×2点）	22	18	12	56	40	68	24	14	42	46	6	38	0	
3番目に必要（×1点）	10	9	1	15	23	21	9	10	25	28	6	34	0	
総合得点	161	57	22	167	144	158	63	63	97	125	18	81	3	

* ■ は必要だと思う順位における上位3位の項目

【前回調査との比較】

前回調査と同様に、最大3つを選択した場合の結果と総合得点の順位を比較すると、上位7位までは同様の結果となっています。

また、前回調査と比較すると、前回調査では「学校教育の中で、男女が協力することの大切さを教える」が15.4%で第1位となっていましたが、同項目は今回調査では9.0%で第6位となっています。

一方、「家庭教育の中で、「互いに協力する」育て方やしつけをする」が9.1%から12.8%と増加し、第6位から第3位と順位が上がっています。

前回調査では学校教育で教えることが必要とされていましたが、今回調査では家庭教育でのしつけが重要だと考える人が増加しています。

図表 22 家事・育児・介護への男女共同参画について（前回との比較／複数回答）

